

5. 都市生活者の社会意識と実態

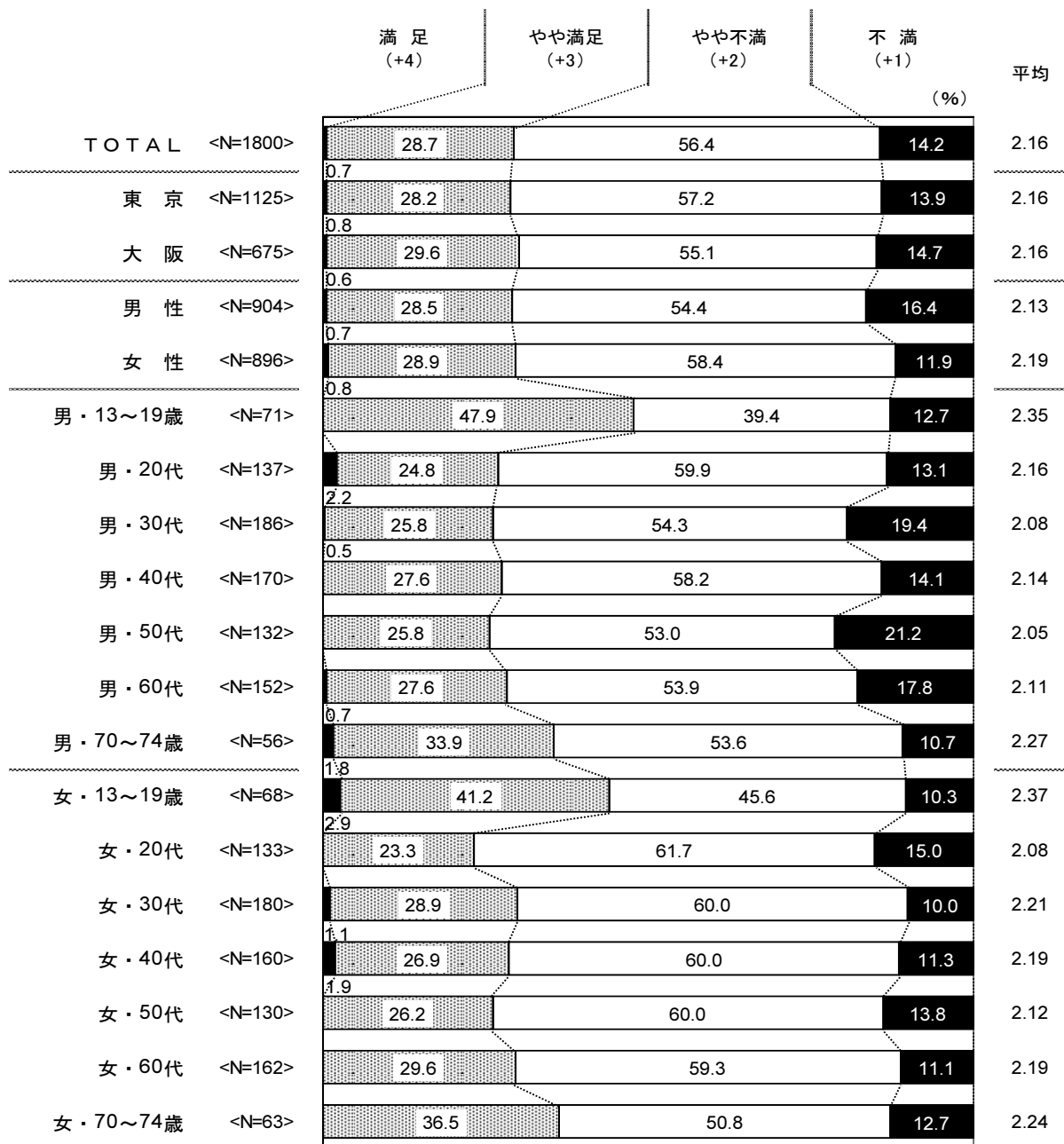
(1) 現在の社会満足度

TOTAL でみると、現在の社会に“満足（満足+やや満足）”と 29%、“不満（やや不満+不満）”と 71%が回答。

東京・大阪間、男女間でみると、男女間の“不満”に有意差がみられ、女性より男性のほうが 5 ポイント高い。

性・年齢別にみると、満足度が相対的に高いのは男女とも満 13~19 歳（満足+やや満足：男性 48%、女性 44%）。

図Ⅲ-5-1. 現在の社会満足度



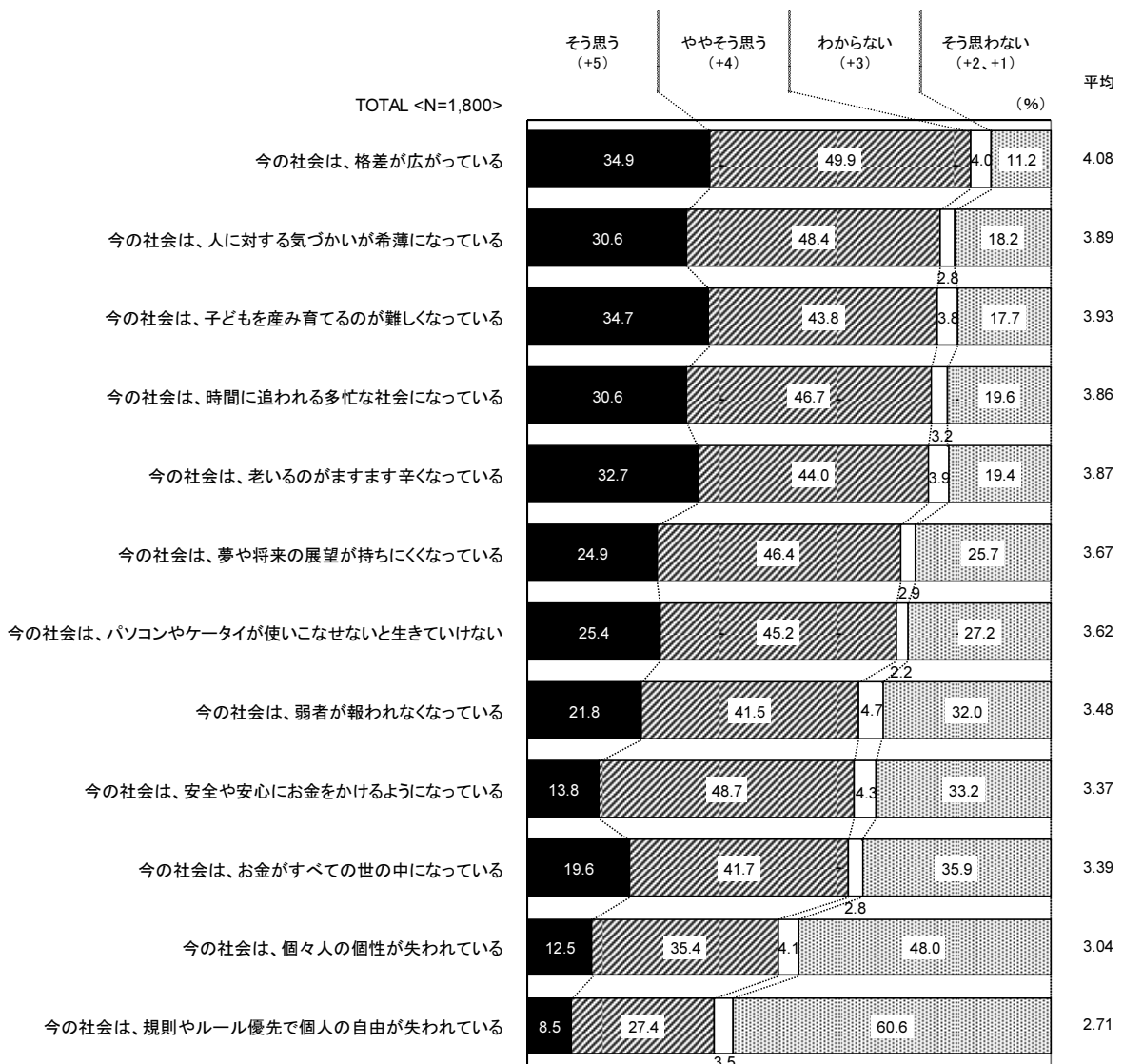
(2) 今の社会についての感じ

“そう思う（そう思う+ややそう思う）”の上位をTOTALでみると、「今の社会は、格差が広がっている」が85%で最も高く、以下「今の社会は、人に対する気づかいが希薄になっている」「今の社会は、子どもを産み育てるのが難しくなっている」「今の社会は、時間に追われる多忙な社会になっている」「今の社会は、老いるのがますます辛くなっている」（それぞれ75%以上）が続いている。

“そう思う（そう思う+ややそう思う）”でみると、東京・大阪間には3項目で有意差がみられ、「今の社会は、子どもを産み育てるのが難しくなっている」「今の社会は、時間に追われる多忙な社会になっている」「今の社会は、パソコンやケータイが使いこなせないと生きていけない」の3項目とも大阪より東京のほうが高い。

男女間には2項目で有意差がみられ、「今の社会は、個々人の個性が失われている」「今の社会は、規則やルール優先で個人の自由が失われている」の2項目とも女性より男性のほうが高い。

図Ⅲ-5-2. 今の社会についての感じ



表Ⅲ-5-1. 今の社会についての感じ(そう思う+ややそう思う)

(%)

	N	格差が広がっている	気がつかないが希薄人に対する	子どもを産み育てるのが難しい	多忙な社会に時間に追われる	老いるのが辛くなります	夢や将来の展望が持ちにくく	パソコン等を使いこなせない	生きていけない弱者が報われる	弱者が報われる	安全や安心に	お金をかけるよ	世の中に	個性	先で個人の自由	
TOTAL	1,800	84.8	78.9	78.5	77.3	76.7	71.3	70.6	63.3	62.5	61.3	47.9	35.9			
東京	1,125	85.9	79.3	80.4	79.3	78.0	71.5	73.0	63.6	64.0	61.2	48.6	36.0			
大阪	675	83.0	78.4	75.4	73.9	74.5	71.1	66.7	62.8	60.0	61.5	46.8	35.7			
男	904	83.6	80.0	78.5	76.8	76.1	71.5	70.7	63.6	64.6	62.9	50.8	40.6			
女	896	85.9	77.9	78.5	77.8	77.3	71.2	70.5	62.9	60.4	59.7	45.1	31.1			
男	13~19歳	71	56.3	60.6	50.7	56.3	53.5	54.9	69.0	50.7	50.7	50.7	39.4	33.8		
	20代	137	82.5	72.3	75.2	79.6	70.1	75.2	79.6	67.2	62.0	70.8	59.1	54.7		
	30代	186	84.9	73.7	80.1	81.2	74.7	66.7	79.6	60.8	68.3	59.1	39.2	41.9		
	40代	170	86.5	84.7	82.4	82.4	85.3	72.9	70.0	60.0	67.6	62.4	51.2	34.1		
	50代	132	87.1	88.6	81.8	76.5	76.5	74.2	72.0	61.4	71.2	60.6	52.3	36.4		
	60代	152	88.8	88.2	81.6	73.0	81.6	76.3	58.6	76.3	62.5	66.4	56.6	40.1		
	70~74歳	56	85.7	87.5	89.3	75.0	80.4	75.0	53.6	62.5	57.1	69.6	62.5	41.1		
女	13~19歳	68	64.7	54.4	50.0	61.8	52.9	67.6	69.1	42.6	50.0	64.7	44.1	39.7		
	20代	133	84.2	77.4	82.0	85.7	73.7	73.7	90.2	65.4	57.1	57.9	46.6	37.6		
	30代	180	87.8	75.0	81.1	82.2	80.6	66.7	77.2	60.0	63.9	62.8	37.8	33.3		
	40代	160	89.4	78.1	75.0	78.1	77.5	67.5	78.8	58.8	65.0	53.8	35.0	30.0		
	50代	130	95.4	86.2	82.3	79.2	88.5	76.2	65.4	74.6	66.2	58.5	50.0	20.0		
	60代	162	84.0	81.5	82.7	71.0	77.2	74.7	51.9	64.8	52.5	64.2	52.5	29.6		
	70~74歳	63	84.1	85.7	84.1	79.4	79.4	73.0	49.2	69.8	65.1	55.6	60.3	31.7		

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

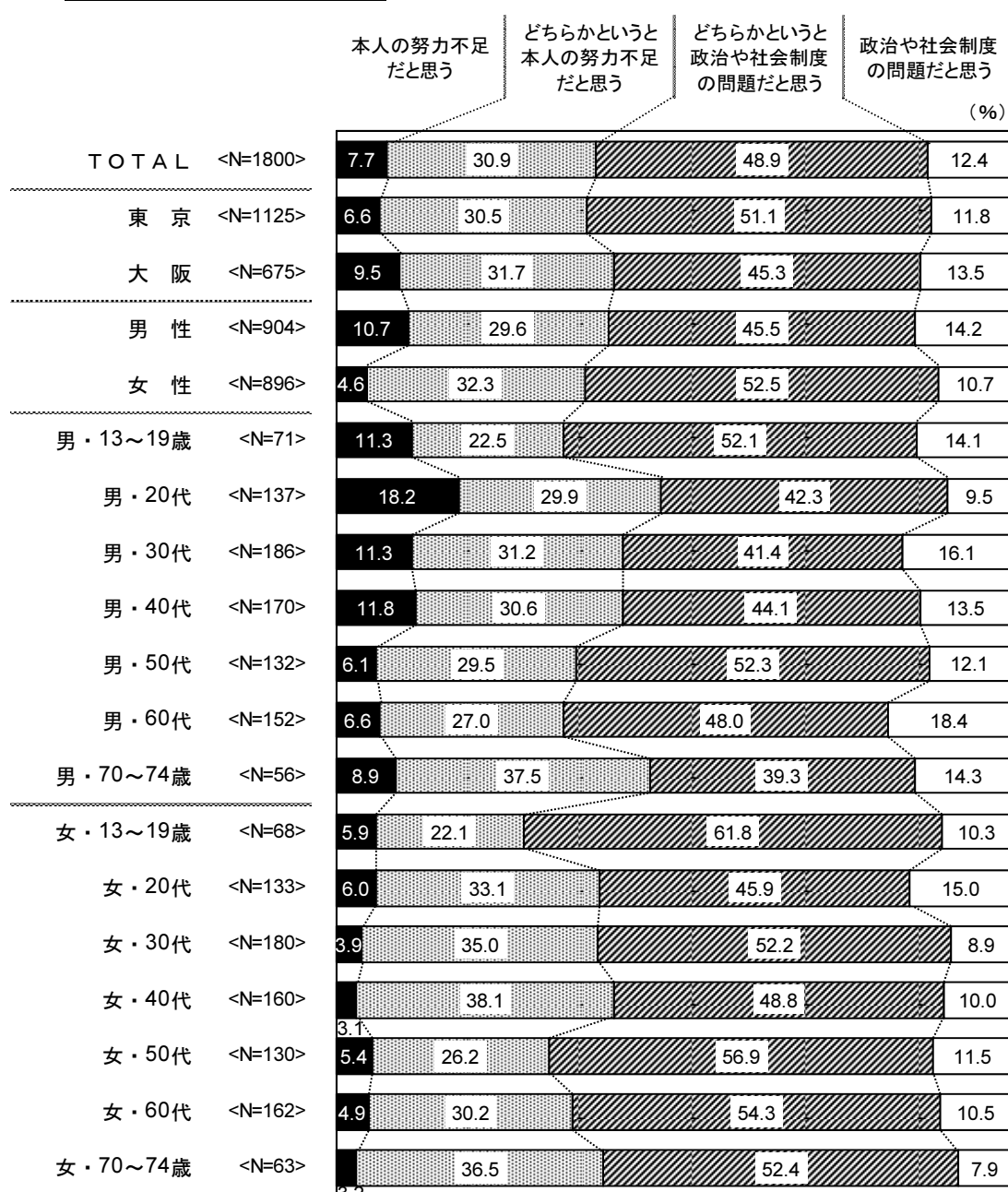
(3) 格差について

TOTAL でみると、格差が生じるのは“(どちらかという) 本人の努力不足だと思う”が 39%、“(どちらかという) 政治や社会制度に問題があるからだと思う”と 61%が回答。

“どちらかという”を除いた“本人の努力不足だと思う”“政治や社会制度に問題があるからだと思う”は男女間に有意差がみられ、「本人の努力不足」「政治や社会制度に問題」のいずれも女性より男性のほうが高い。

“(どちらかという) 本人の努力不足だと思う”と“(どちらかという) 政治や社会制度に問題があるからだと思う”の差を性・年齢別にみると、各年齢とも「政治や社会制度に問題」が「本人の努力不足」を上回っており、その差が 30 ポイント以上みられるのは、男女満 13~19 歳と男性 60 代、女性 50 代。

図Ⅲ-5-3. 格差が生じる原因



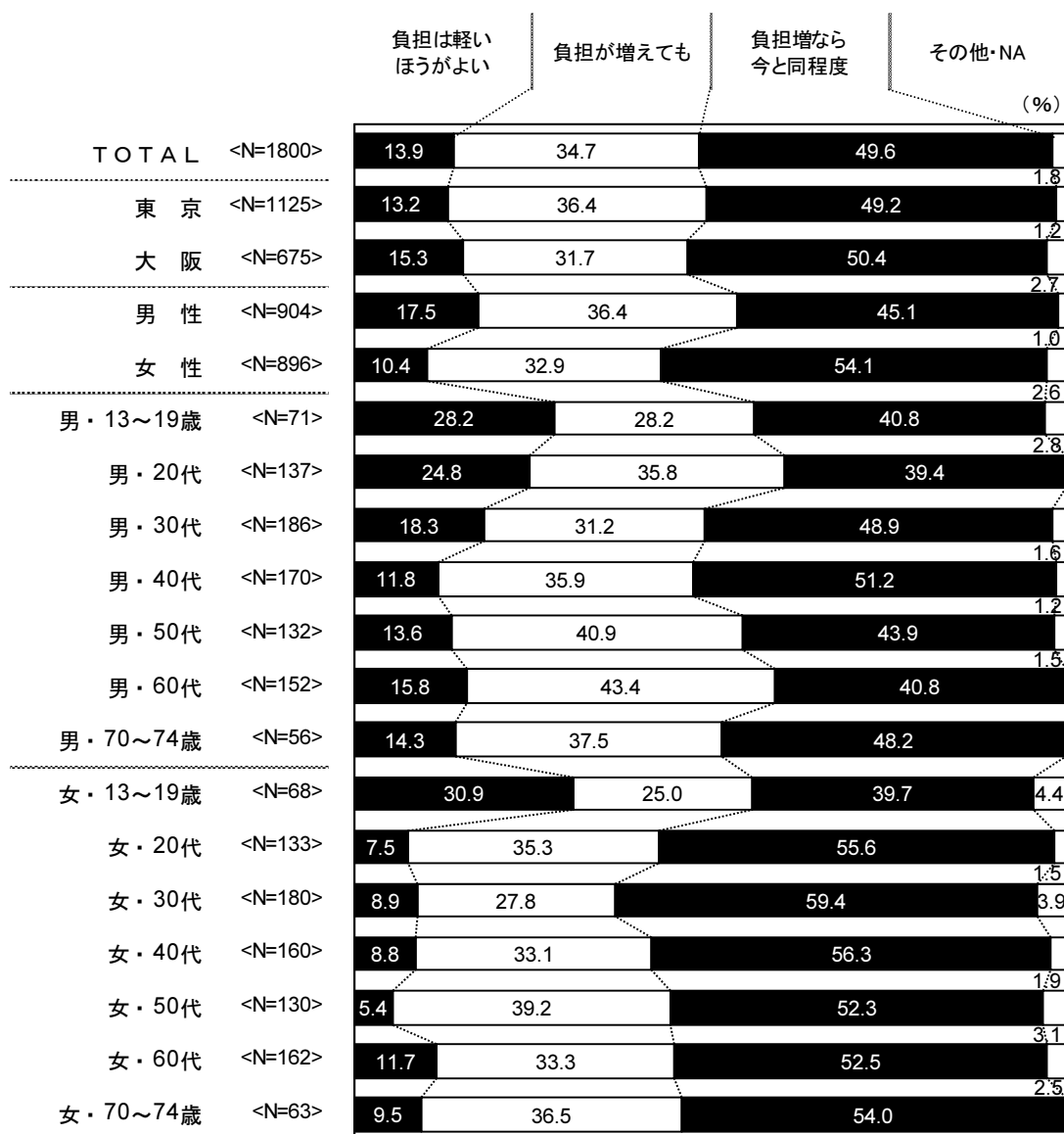
(4) 社会福祉や年金と税負担

TOTAL でみると、「社会福祉や年金の水準はあげてほしいが、税金の負担が増えるのなら今と同じ程度でよい」が 50%で最も高く、「税金などの負担が多少増えても、社会福祉や年金の水準をあげたほうがよい」は 35%、「社会福祉や年金の水準が多少低下しても、税金などの負担は軽いほうがよい」は 14%。

東京・大阪間、男女間に有意差がみられ、「税金などの負担が多少増えても、社会福祉や年金の水準をあげたほうがよい」は大阪より東京、「社会福祉や年金の水準はあげてほしいが、税金の負担が増えるのなら今と同じ程度でよい」は男性より女性、「社会福祉や年金の水準が多少低下しても、税金などの負担は軽いほうがよい」は女性より男性のほうが高い。

性・年齢別にみると、「負担は軽いほうがよい」は男女満 13～19 歳（男性 28%、女性 31%）、「税金などの負担が多少増えても、社会福祉や年金の水準をあげたほうがよい」は男性 50 代・60 代（それぞれ 40%台）、女性 50 代（39%）、「負担が増えるのなら今と同じ程度でよい」は男性 40 代（51%）、女性 30 代（59%）で相対的に高い。

図Ⅲ-5-4. 社会福祉や年金と税負担



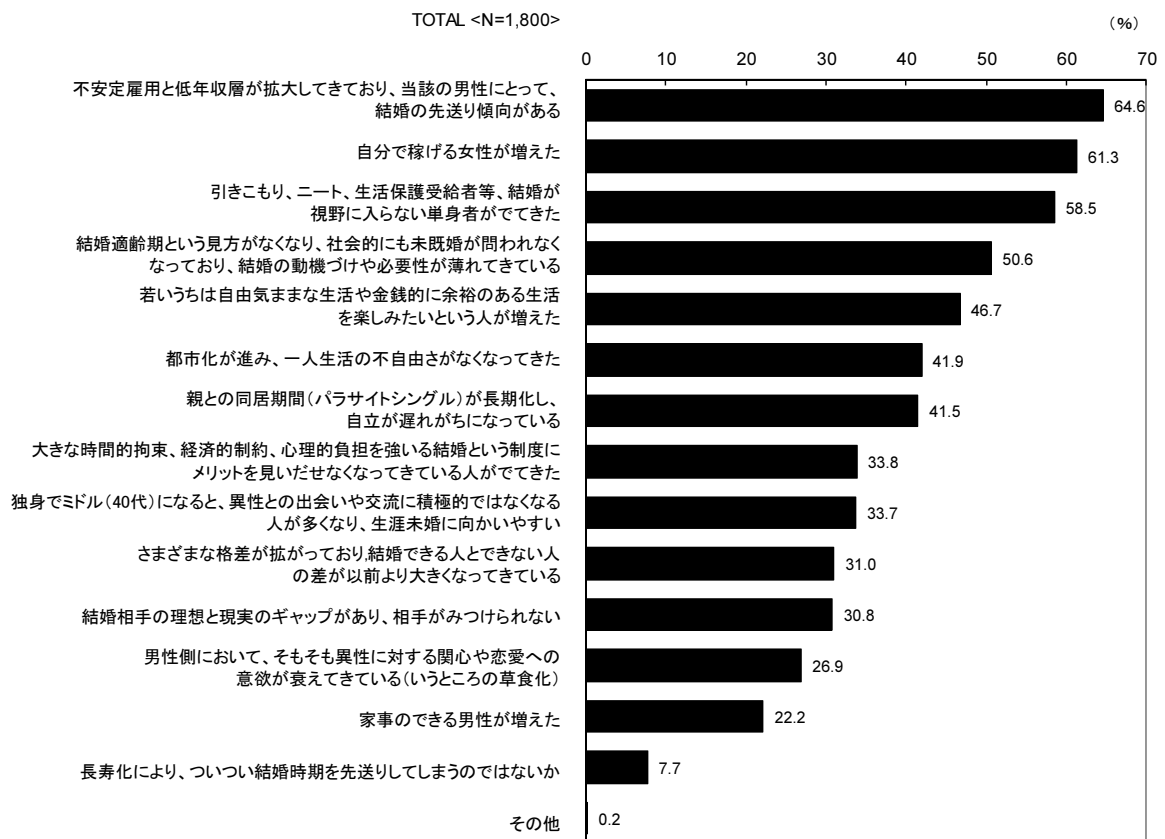
(5) 未婚者増加の背景

未婚者増大の背景をTOTALでみると、「不安定雇用と低年収層が拡大してきており、当該の男性にとって、結婚の先送り傾向がある」が最も高く65%、以下「自分で稼げる女性が増えた」(61%)、「引きこもり、ニート、生活保護受給者等、結婚が視野に入らない単身者がでてきた」(59%)、「結婚適齢期という見方がなくなり、社会的にも未既婚が問われなくなっており、結婚の動機づけや必要性が薄れてきている」(51%)、「若いうちは自由気ままな生活や金銭的に余裕のある生活を楽しみたいという人が増えた」(47%)が続いている。

東京・大阪間には「若いうちは自由気ままな生活や金銭的に余裕のある生活を楽しみたいという人が増えた」で有意差がみられ、大阪より東京のほうが高い。

男女間には、14項目中8項目で有意差がみられ、女性より男性のほうが高いのは「不安定雇用と低年収層が拡大してきており、当該の男性にとって、結婚の先送り傾向がある」の1項目、他の7項目、「自分で稼げる女性が増えた」「結婚適齢期という見方がなくなり、社会的にも未既婚が問われなくなっており、結婚の動機づけや必要性が薄れてきている」「都市化が進み、一人生活の不自由さがなくなってきた」「親との同居期間(パラサイトシングル)が長期化し、自立が遅れがちになっている」「大きな時間的拘束、経済的制約、心理的負担を強いる結婚という制度にメリットを見いだせなくなってきている人がでてきた」「結婚相手の理想と現実のギャップがあり、相手がみつけれない」「家事のできる男性が増えた」では男性より女性のほうが高い。

図Ⅲ-5-5. 未婚者増加の背景



表Ⅲ-5-2. 未婚者増加の背景(上位3)

(注) ()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	不安定雇用と低年収層拡大(65)	自分で稼げる女性が増えた(61)	結婚が視野に入らない人増(59)
東京<N=1,125>	不安定雇用と低年収層拡大(65)	自分で稼げる女性が増えた(60)	結婚が視野に入らない人増(57)
大阪<N=675>	不安定雇用と低年収層拡大(65)	自分で稼げる女性が増えた(63)	結婚が視野に入らない人増(60)
男性<N=904>	不安定雇用と低年収層拡大(67)	結婚が視野に入らない人増(58)	自分で稼げる女性が増えた(55)
女性<N=896>	自分で稼げる女性が増えた(67)	不安定雇用と低年収層拡大(62)	結婚が視野に入らない人増(59)
男 13~19歳<N=71>	結婚が視野に入らない人増(44)	自分で稼げる女性が増えた/若いうちは生活を楽しまたい人増(各 39)	
男 20代<N=137>	不安定雇用と低年収層拡大(77)	結婚が視野に入らない人増(56)	自分で稼げる女性が増えた(46)
男 30代<N=186>	不安定雇用と低年収層拡大(66)	結婚が視野に入らない人増(58)	自分で稼げる女性が増えた(53)
男 40代<N=170>	結婚が視野に入らない人増(61)	不安定雇用と低年収層拡大(59)	自分で稼げる女性が増えた(57)
男 50代<N=132>	不安定雇用と低年収層拡大(72)	結婚が視野に入らない人増(62)	社会的に未婚期間がなくなった(60)
男 60代<N=152>	不安定雇用と低年収層拡大(74)	自分で稼げる女性が増えた(69)	結婚が視野に入らない人増(58)
男 70~74歳<N=56>	不安定雇用と低年収層拡大(80)	自分で稼げる女性が増えた(68)	結婚が視野に入らない人増(64)
女 13~19歳<N=68>	自分で稼げる女性が増えた(65)	結婚が視野に入らない人増(50)	若いうちは生活を楽しまたい人増(41)
女 20代<N=133>	自分で稼げる女性が増えた(76)	不安定雇用と低年収層拡大(66)	結婚が視野に入らない人増(58)
女 30代<N=180>	自分で稼げる女性が増えた(64)	不安定雇用と低年収層拡大(59)	結婚が視野に入らない人増(57)
女 40代<N=160>	結婚が視野に入らない人増(64)	自分で稼げる女性が増えた(64)	不安定雇用と低年収層拡大(59)
女 50代<N=130>	不安定雇用と低年収層拡大(73)	結婚が視野に入らない人増(65)	自分で稼げる女性が増えた(62)
女 60代<N=162>	自分で稼げる女性が増えた(73)	社会的に未婚期間がなくなった(72)	不安定雇用と低年収層拡大(67)
女 70~74歳<N=63>	不安定雇用と低年収層拡大(71)	自分で稼げる女性が増えた/社会的に未婚期間がなくなった(各 68)	

表Ⅲ-5-3. 未婚者増加の背景

(%)

	N	不安定雇用と低年収層の拡大	自分で稼げる女性が増えた	結婚が視野に入らない人増	結婚適齢期という見方がなくなった	若いうちは生活を楽しまたいという人が増えた	一人生活の自由がなくなった	親との同居が長期化している	結婚にメリットが見いだせなくなった	異性との出会いが難しい	結婚できる人とできない人の差	結婚相手の理想と現実のギャップがある	関心や恋愛に対する異性に対する	する意欲の衰え	家事のできる	男性が増えた	長寿化による結婚の先送り	その他
TOTAL	1,800	64.6	61.3	58.5	50.6	46.7	41.9	41.5	33.8	33.7	31.0	30.8	26.9	22.2	7.7	0.2		
東京	1,125	64.5	60.4	57.3	49.4	48.8	41.6	41.7	33.8	33.6	30.6	30.5	28.3	22.5	8.2	0.2		
大阪	675	64.6	63.0	60.4	52.4	43.3	42.4	41.2	33.8	33.8	31.7	31.4	24.7	21.8	7.0	0.1		
男	904	67.3	55.3	58.1	46.7	45.7	38.7	38.1	30.1	32.0	30.4	28.5	26.3	18.9	7.0	0.3		
女	896	61.8	67.4	58.9	54.5	47.8	45.1	45.0	37.5	35.4	31.6	33.1	27.6	25.6	8.5	-		
男	13~19歳	71	38.0	39.4	43.7	16.9	39.4	23.9	12.7	7.0	14.1	11.3	18.3	19.7	22.5	2.8	-	
	20代	137	76.6	46.0	56.2	37.2	40.9	35.0	37.2	30.7	19.0	21.2	26.3	25.5	19.0	8.0	-	
	30代	186	66.1	53.2	58.1	37.1	49.5	36.0	32.3	28.0	25.8	21.5	25.3	22.0	23.1	4.8	0.5	
	40代	170	59.4	57.1	60.6	52.4	51.2	37.1	44.7	35.9	45.3	31.2	25.3	31.8	20.0	6.5	0.6	
	50代	132	72.0	53.0	62.1	59.8	41.7	43.9	47.0	30.3	37.1	38.6	34.8	31.8	18.2	6.8	0.8	
	60代	152	73.7	69.1	57.9	57.2	42.8	48.0	44.1	34.2	36.8	43.4	36.2	20.4	12.5	8.6	-	
	70~74歳	56	80.4	67.9	64.3	62.5	53.6	42.9	33.9	35.7	41.1	50.0	32.1	37.5	16.1	14.3	-	
女	13~19歳	68	25.0	64.7	50.0	16.2	41.2	33.8	23.5	13.2	17.6	14.7	26.5	22.1	23.5	8.8	-	
	20代	133	66.2	75.9	57.9	46.6	55.6	37.6	34.6	33.8	22.6	19.5	28.6	27.1	22.6	8.3	-	
	30代	180	59.4	63.9	56.7	53.9	43.3	41.1	41.7	38.3	31.1	27.8	33.3	28.9	23.3	5.6	-	
	40代	160	58.8	63.8	64.4	51.3	46.3	43.1	45.0	44.4	40.0	29.4	25.6	28.8	28.8	3.8	-	
	50代	130	73.1	62.3	65.4	58.5	43.8	48.5	55.4	41.5	35.4	39.2	39.2	28.5	33.1	7.7	-	
	60代	162	66.7	72.8	55.6	72.2	51.9	53.1	51.9	36.4	45.7	43.8	37.7	24.1	23.5	14.2	-	
	70~74歳	63	71.4	68.3	58.7	68.3	52.4	61.9	60.3	46.0	55.6	44.4	44.4	34.9	22.2	15.9	-	

(注) 網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

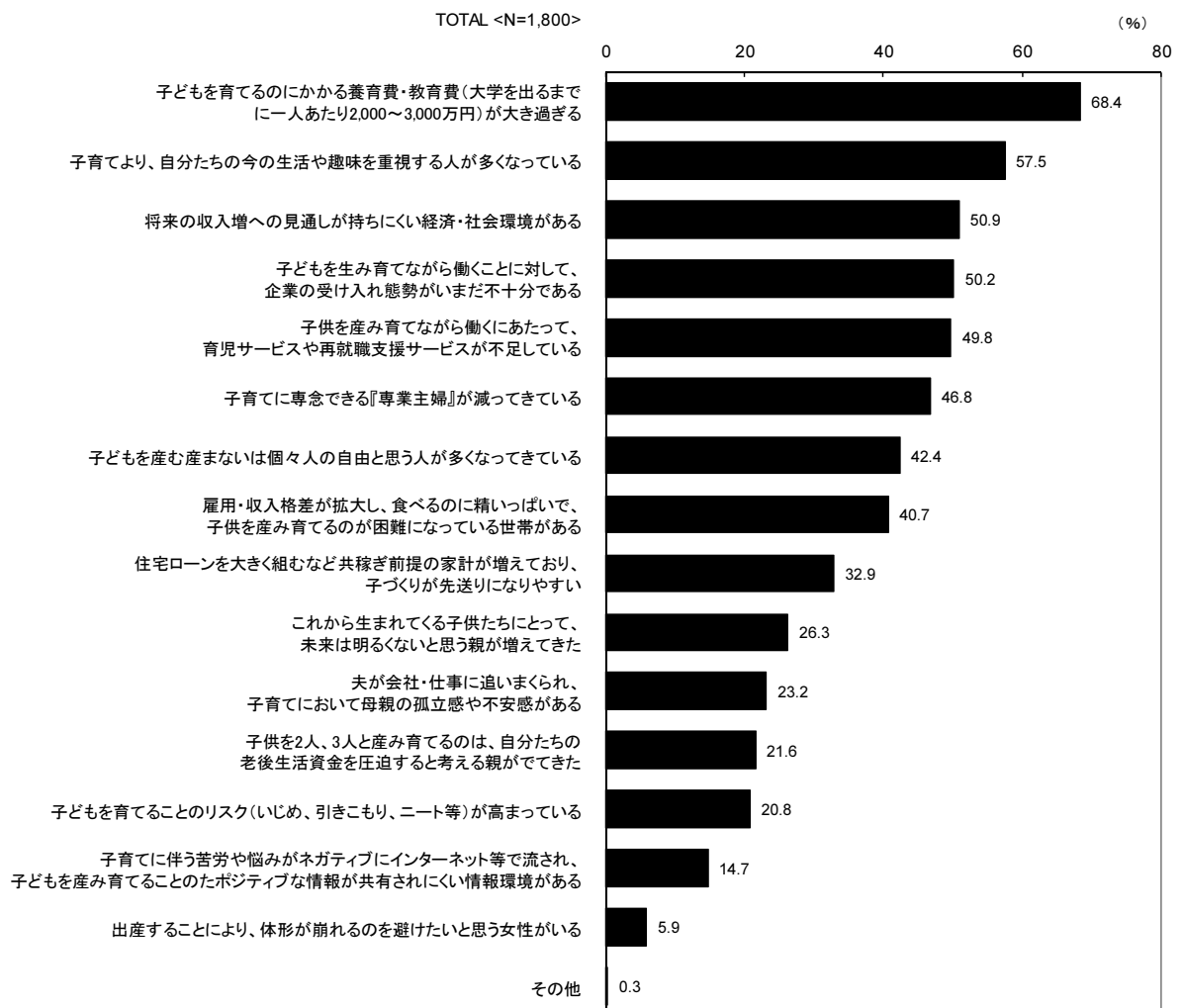
(6) 少子化の背景

少子化の背景を TOTAL でみると、「子どもを育てるのにかかる養育費・教育費（大学を出るまでに一人あたり 2,000～3,000 万円）が大き過ぎる」が 68%で最も高く、以下「子育てより、自分たちの今の生活や趣味を重視する人が多くなっている」（58%）、「将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境がある」（51%）、「子どもを産み育てながら働くことに対して、企業の受け入れ態勢がまだまだ不十分である」（50%）、「子どもを産み育てながら働くにあたって、育児サービスや再就職支援サービスが不足している」（50%）が続いている。

東京・大阪間には「これから生まれてくる子どもたちにとって、未来は明るくないと思う親が増えてきた」で有意差がみられ、大阪より東京のほうが高い。

男女間には、「子どもを産み育てながら働くことに対して、企業の受け入れ態勢がまだまだ不十分である」「子どもを産み育てながら働くにあたって、育児サービスや再就職支援サービスが不足している」「子育てに専念できる『専業主婦』が減ってきている」「子どもを産む産まないは個々人の自由と思う人が多くなっている」「これから生まれてくる子どもたちにとって、未来は明るくないと思う親が増えてきた」「子どもを育てることのリスク（いじめ、引きこもり、ニート等）が高まっている」の 7 項目で有意差がみられ、7 項目とも男性より女性のほうが高い。

図Ⅲ-5-6. 少子化の背景



表Ⅲ-5-4. 少子化の背景(上位3)

(注)()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(68)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(58)	将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境(51)
東京<N=1,125>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(69)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(57)	将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境(53)
大阪<N=675>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(67)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(58)	企業の受け入れ態勢が不十分(49)
男性<N=904>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(68)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(56)	将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境(52)
女性<N=896>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(69)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(59)	企業の受け入れ態勢が不十分(55)
男 13～19 歳<N=71>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(47)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(32)	子育てに専念できる『専業主婦』の減少(28)
男 20 代<N=137>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(67)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(58)	将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境(47)
男 30 代<N=186>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(68)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(63)	企業の受け入れ態勢が不十分(48)
男 40 代<N=170>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(69)	将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境(58)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(57)
男 50 代<N=132>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(77)	将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境(65)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(61)
男 60 代<N=152>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(67)	将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境(59)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(55)
男 70～74 歳<N=56>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(77)	将来の収入増への見通しが持ちにくい経済・社会環境／育児サービスや再就職支援サービスが不足(各 63)	
女 13～19 歳<N=68>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(50)	産む産まないは個々人の自由と考える人が多くなってきている(49)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(43)
女 20 代<N=133>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(68)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(61)	産む産まないは個々人の自由と考える人が多くなってきている(55)
女 30 代<N=180>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(78)	企業の受け入れ態勢が不十分(62)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(59)
女 40 代<N=160>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(74)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(61)	企業の受け入れ態勢が不十分(50)
女 50 代<N=130>	育児サービスや再就職支援サービスが不足(65)	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(64)	企業の受け入れ態勢が不十分(62)
女 60 代<N=162>	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(64)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(59)	育児サービスや再就職支援サービスが不足(58)
女 70～74 歳<N=63>	企業の受け入れ態勢が不十分(71)	子どもを育てるのにかかる費用が大きすぎる(68)	自分たちの生活や趣味を重視する人が多くなっている(64)

表Ⅲ-5-5. 少子化の背景

(%)

	N	子どもを育てるのに大きな費用がかかる	子育ての生活が重たい	収入増の見通しが持たにくい	経済・社会環境が子育てに不利	企業への受け入れ態勢が不十分	再就職支援や育児サービスマネジメント	専業主婦の減少	個人の自由と産む産まないは	思っている人の増大	世帯があるてのが困難な子どもを産み育てる	共稼ぎ前提の家計が増え、子育てが先送りになり	と親の増大来は明るくない子どもにとり	母親の孤立感	や不安感がある
TOTAL	1,800	68.4	57.5	50.9	50.2	49.8	46.8	42.4	40.7	32.9	26.3	23.2			
東京	1,125	69.4	57.4	52.5	50.8	51.1	46.2	43.6	41.0	32.8	28.1	23.6			
大阪	675	66.8	57.6	48.1	49.3	47.6	47.7	40.4	40.1	33.2	23.3	22.7			
男	904	68.3	56.3	52.3	45.5	46.1	43.4	39.8	40.7	33.5	24.0	21.0			
女	896	68.6	58.7	49.4	55.0	53.5	50.2	45.1	40.6	32.4	28.6	25.4			
男	13~19歳	71	46.5	32.4	18.3	19.7	12.7	28.2	25.4	16.9	12.7	9.9	12.7		
	20代	137	67.2	57.7	47.4	43.1	43.1	40.1	46.7	31.4	21.9	22.6	24.8		
	30代	186	68.3	63.4	46.2	48.4	45.7	33.9	45.2	39.8	32.8	18.8	18.3		
	40代	170	69.4	57.1	58.2	42.9	44.1	49.4	41.2	42.4	35.9	22.9	21.2		
	50代	132	77.3	60.6	65.2	52.3	53.8	47.0	34.1	47.7	37.9	28.8	24.2		
	60代	152	67.1	55.3	58.6	47.4	54.6	50.7	36.8	46.7	38.8	34.9	19.1		
	70~74歳	56	76.8	50.0	62.5	60.7	62.5	55.4	41.1	58.9	58.9	25.0	28.6		
女	13~19歳	68	50.0	42.6	29.4	23.5	23.5	38.2	48.5	22.1	13.2	16.2	13.2		
	20代	133	68.4	60.9	45.1	50.4	52.6	50.4	54.9	37.6	23.3	24.1	23.3		
	30代	180	78.3	58.9	50.0	62.2	56.1	47.2	40.6	41.7	34.4	26.7	33.3		
	40代	160	74.4	60.6	47.5	50.0	48.8	48.1	43.1	45.6	28.8	27.5	23.1		
	50代	130	63.8	59.2	53.1	62.3	64.6	52.3	40.8	40.0	39.2	31.5	23.1		
	60代	162	64.2	59.3	56.2	56.8	58.0	54.9	45.1	40.1	36.4	38.3	28.4		
	70~74歳	63	68.3	63.5	58.7	71.4	57.1	60.3	47.6	54.0	50.8	28.6	23.8		

	親が出てきた と考える 老後資金を圧迫	高まっている リスクが 子育てに 対する	情報が共有 されにくい環境 子育てのボジテ	けたい女性増 が崩れるのを避 けたい女性増 出産により体型	その他	
TOTAL	21.6	20.8	14.7	5.9	0.3	
東京	21.4	20.4	14.7	5.4	0.5	
大阪	21.9	21.6	14.8	6.8	-	
男	22.2	17.4	14.5	5.4	0.1	
女	21.0	24.3	15.0	6.5	0.6	
男	13~19歳	14.1	21.1	7.0	4.2	-
	20代	27.7	19.7	10.2	2.9	0.7
	30代	24.2	15.6	13.4	5.4	-
	40代	21.2	15.3	13.5	5.3	-
	50代	21.2	18.2	13.6	4.5	-
	60代	20.4	16.4	19.7	8.6	-
	70~74歳	23.2	19.6	28.6	7.1	-
女	13~19歳	20.6	33.8	8.8	13.2	-
	20代	20.3	23.3	9.8	12.0	0.8
	30代	26.1	25.6	11.1	6.1	1.1
	40代	20.6	23.1	13.8	5.0	1.3
	50代	24.6	22.3	16.2	3.8	-
	60代	16.0	23.5	20.4	3.1	-
	70~74歳	14.3	22.2	30.2	6.3	-

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

(7) 近未来の社会

TOTAL でみて、“なると思う”と“ならないと思う”の差が70%以上あるのは以下の項目。

「一人暮らしの高齢者が増えた社会」（“なると思う”－“ならないと思う”＝82%、以下同じ）

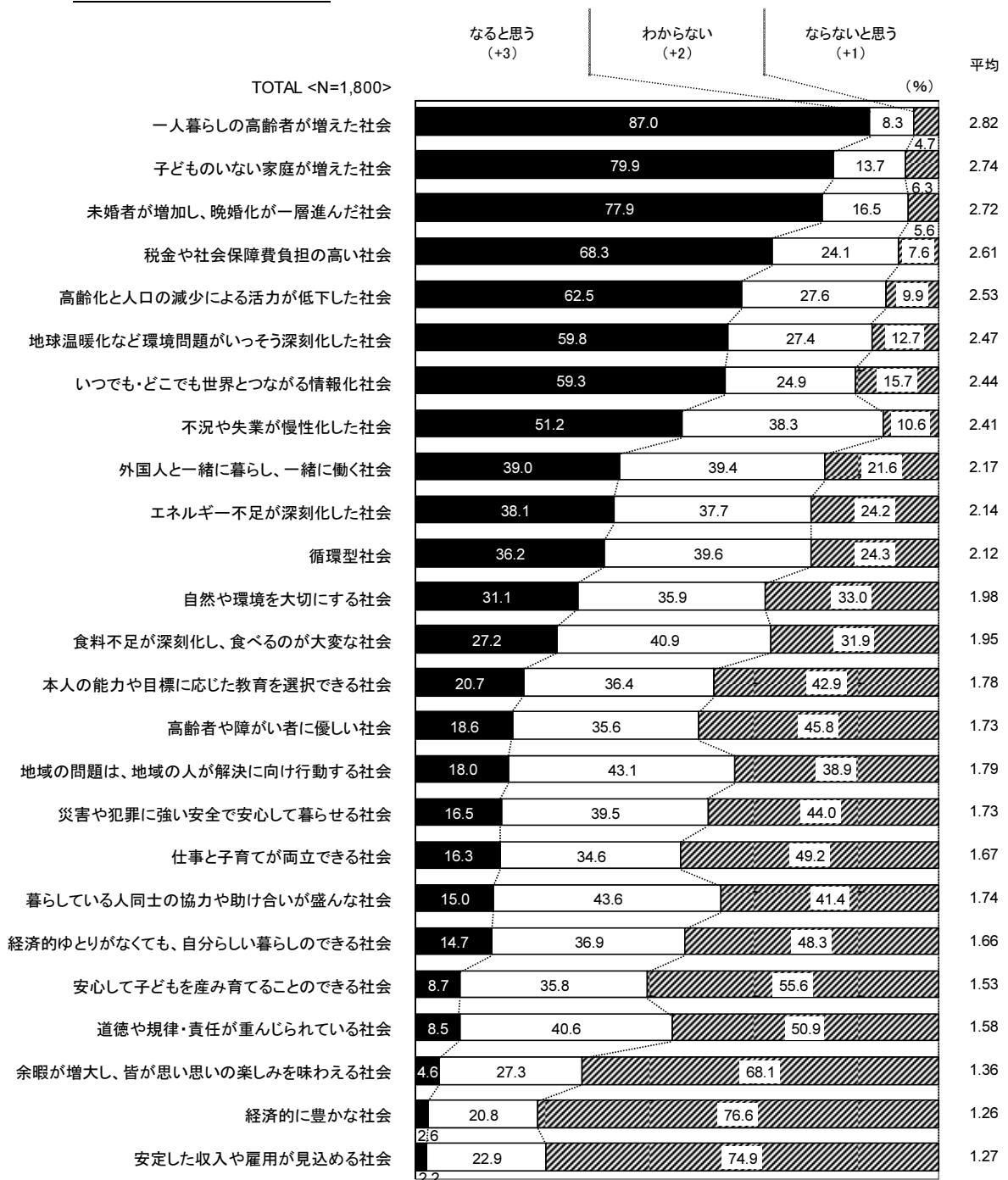
「子どものいない家庭が増えた社会」（74%）

「未婚者が増加し、晩婚化が一層進んだ社会」（72%）

「安定した収入や雇用が見込める社会」（－73%）

「経済的に豊かな社会」（－74%）

図Ⅲ-5-7. 近未来の社会



表Ⅲ-5-6. 近未来の社会(なると思う-ならないと思う)

(%)

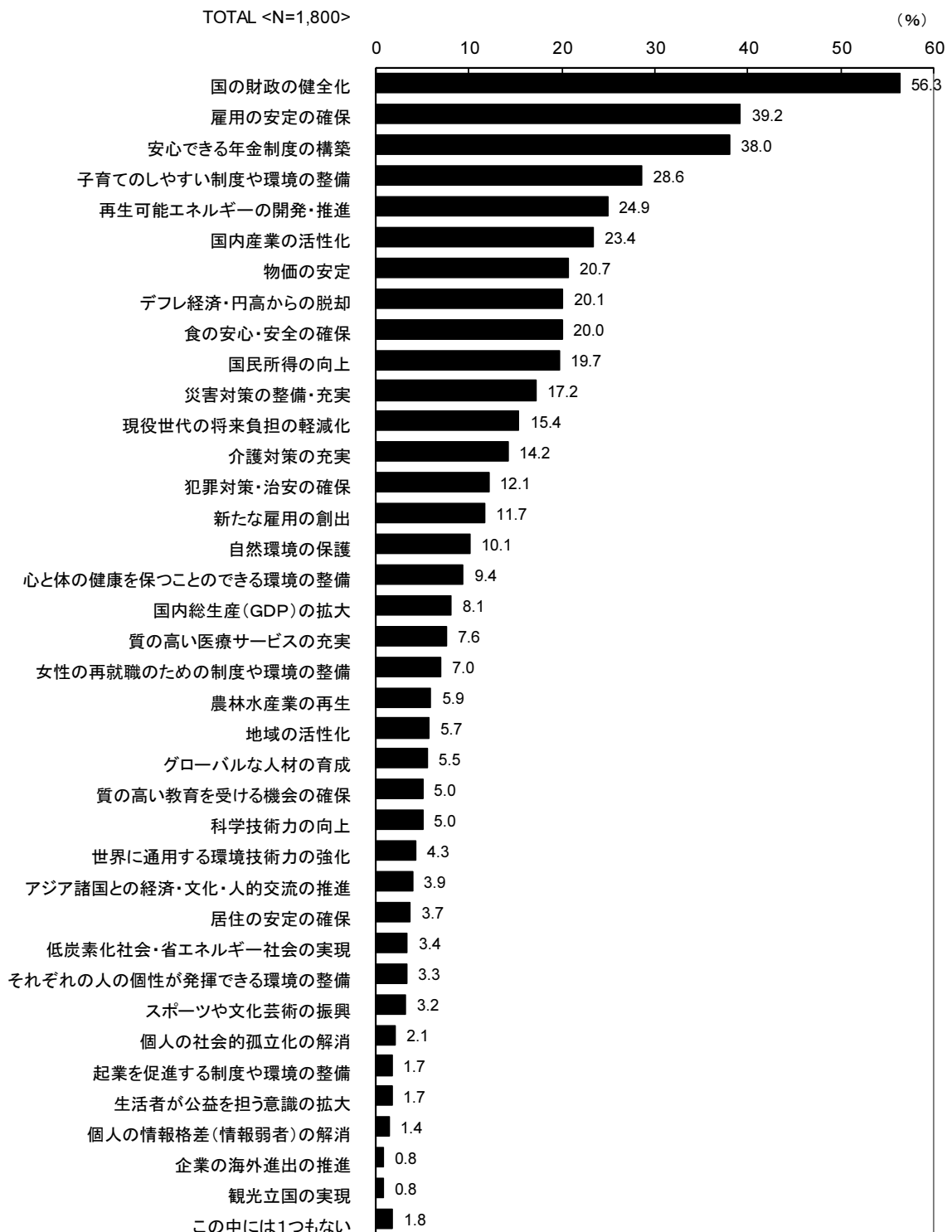
	N	一人暮らしの高齢者が増えた社会	家庭が増えた社会 子どものいない	未婚者が増加し、 一層進んだ社会 晩婚化が	税金や社会保障費 負担の高い社会	高齢化と人口減少 による活力が 低下した社会	地球温暖化等 深刻化した社会 環境問題が一層	いつでもどこでも 世界とつながる 情報化社会	不況や失業が 慢性化した社会	外国人と 一緒に働く社会	エネルギー不足が 深刻化した社会	循環型社会	自然や環境を 大切にする社会	
TOTAL	1,800	82.3	73.6	72.3	60.7	52.6	47.1	43.6	40.6	17.4	13.9	11.9	-1.9	
東京	1,125	84.0	78.0	73.2	61.4	53.5	50.0	46.9	39.4	21.3	15.7	15.2	3.5	
大阪	675	79.6	66.2	70.8	59.4	51.1	42.4	38.1	42.7	10.8	10.8	6.4	-11.0	
男	904	80.3	73.5	71.9	60.2	53.4	42.3	40.0	41.4	12.5	13.6	10.3	-6.3	
女	896	84.4	73.8	72.7	61.2	51.8	52.0	47.2	39.8	22.3	14.2	13.5	2.5	
男	13~19歳	71	39.4	36.6	33.8	36.6	19.7	31.0	23.9	21.1	18.3	2.8	5.6	-15.5
	20代	137	71.5	71.5	65.7	56.2	48.9	32.1	48.2	36.5	31.4	14.6	10.2	-2.2
	30代	186	80.1	74.7	72.0	52.7	50.5	42.5	53.8	39.2	21.5	9.7	4.8	-8.1
	40代	170	90.0	80.6	87.1	65.3	65.3	43.5	36.5	50.6	0.6	16.5	15.3	-5.3
	50代	132	88.6	79.5	81.1	63.6	66.7	47.0	38.6	49.2	9.1	8.3	12.1	-5.3
	60代	152	86.2	77.0	71.7	71.7	47.4	45.4	36.8	45.4	7.2	23.0	13.8	-7.2
女	70~74歳	56	89.3	75.0	67.9	69.6	66.1	57.1	17.9	28.6	-12.5	16.1	5.4	-1.8
	13~19歳	68	63.2	57.4	54.4	45.6	42.6	35.3	47.1	35.3	32.4	17.6	4.4	5.9
	20代	133	79.7	74.4	75.9	51.9	46.6	54.1	50.4	40.6	26.3	18.8	13.5	4.5
	30代	180	85.6	76.7	75.6	61.7	47.8	55.6	61.7	34.4	33.9	11.1	19.4	8.9
	40代	160	93.8	78.8	78.1	68.1	55.0	51.9	48.1	40.0	16.3	14.4	10.6	-2.5
	50代	130	90.8	78.5	80.0	70.0	56.9	60.0	46.9	46.9	23.1	20.0	9.2	-1.5
60代	162	86.4	71.6	67.9	63.6	55.6	48.1	37.0	38.3	12.3	4.3	16.0	-3.7	
70~74歳	63	71.4	65.1	60.3	54.0	55.6	49.2	23.8	47.6	9.5	22.2	15.9	12.7	

		大変な社会 し、食べるのが 食料不足が深刻化	選択できる社会 応じた教育を 能力や目標に	高齢者や障がい者 に優しい社会	地域の問題は、 地域の人々が解決に 向け行動する社会	災害や犯罪に強い 安全安心して 暮らせる社会	両立できる社会 仕事と子育てが	暮らしている人 同士の協力や助け 合いが盛んな社会	自分らしい暮らし ができる社会	安心して子どもを 産み育てることの 産み育てることを 安心して子どもを	道徳や規律・責任 が重んじられて いる社会	余暇が増大し、 思い思いの楽しみ を味わえる社会	経済的に 豊かな社会	安定した 見込める社会 収入や雇用が
TOTAL		-4.8	-22.3	-27.2	-20.9	-27.5	-32.9	-26.4	-33.6	-46.9	-42.4	-63.6	-74.0	-72.7
東京		-2.9	-21.4	-25.3	-20.4	-25.9	-31.7	-25.2	-32.2	-45.8	-42.4	-63.7	-74.5	-72.9
大阪		-7.9	-23.7	-30.4	-21.8	-30.2	-34.8	-28.4	-36.0	-48.7	-42.4	-63.3	-73.2	-72.4
男		-4.5	-30.0	-30.0	-25.1	-31.0	-41.4	-30.3	-40.4	-52.8	-45.2	-66.3	-75.7	-75.8
女		-5.0	-14.5	-24.4	-16.6	-24.0	-24.3	-22.4	-26.8	-41.0	-39.5	-60.8	-72.3	-69.6
男	13~19歳	-15.5	-22.5	-18.3	-15.5	-16.9	-26.8	-11.3	-31.0	-32.4	-22.5	-56.3	-50.7	-54.9
	20代	-5.8	-24.8	-8.8	-29.2	-16.8	-41.6	-36.5	-52.6	-46.7	-34.3	-65.0	-72.3	-73.0
	30代	-17.2	-26.3	-25.8	-23.7	-34.4	-43.5	-37.1	-37.1	-55.9	-52.7	-69.4	-72.6	-75.8
	40代	-3.5	-37.1	-38.2	-26.5	-33.5	-43.5	-34.7	-45.9	-62.9	-50.6	-70.6	-79.4	-82.4
	50代	-7.6	-28.8	-43.2	-25.8	-42.4	-53.8	-22.7	-44.7	-57.6	-50.8	-66.7	-84.1	-81.8
	60代	12.5	-34.9	-36.8	-26.3	-34.9	-38.8	-29.6	-36.8	-57.9	-48.7	-67.8	-82.9	-78.9
70~74歳	12.5	-32.1	-35.7	-23.2	-26.8	-23.2	-23.2	-16.1	-26.8	-37.5	-53.6	-75.0	-66.1	
女	13~19歳	-2.9	-13.2	19.1	-26.5	7.4	-5.9	-5.9	-16.2	-16.2	-13.2	-41.2	-44.1	-52.9
	20代	-12.0	-12.8	-15.0	-20.3	-8.3	-15.8	-20.3	-26.3	-31.6	-35.3	-64.7	-67.7	-63.9
	30代	-17.8	-5.6	-18.3	-8.3	-22.2	-23.9	-22.8	-23.9	-45.6	-38.3	-65.6	-70.0	-71.7
	40代	-8.8	-18.8	-30.6	-18.8	-27.5	-21.3	-28.1	-23.1	-48.8	-45.6	-65.0	-80.0	-75.0
	50代	3.1	-15.4	-25.4	-16.9	-36.2	-29.2	-25.4	-30.8	-40.8	-48.5	-62.3	-79.2	-73.1
	60代	4.3	-22.2	-45.1	-17.3	-38.3	-39.5	-24.1	-37.7	-50.6	-45.7	-61.1	-78.4	-74.7
70~74歳	12.7	-12.7	-38.1	-14.3	-25.4	-22.2	-19.0	-20.6	-30.2	-30.2	-46.0	-69.8	-60.3	

(8) 豊かな生活を実現するための課題

豊かな生活実現のために、国や私たちが優先して取り組むべき課題をTOTALでみると、「国の財政の健全化」が56%で最も高く、以下「雇用の安定の確保」「安心できる年金制度の構築」(それぞれ30%台)、「子育てのしやすい制度や環境の整備」「再生可能エネルギーの開発・推進」「国内産業の活性化」「物価の安定」「デフレ経済・円高からの脱却」「食の安心・安全の確保」(それぞれ20%台)が続いている。

図Ⅲ-5-8. 豊かな生活を実現するための課題



東京・大阪、男女、性・年齢別のいずれでも、「国の財政の健全化」が最も高い。

東京・大阪、男女別にみた 2 位は、東京・大阪、男性では「雇用の安定の確保」、女性では「安心できる年金制度の構築」。

性・年齢別の 2 位は、男性では 60 代を除いた全年齢と、女性 20 代・50 代・満 70～74 歳では「雇用の安定の確保」、男性 60 代と女性 40 代・60 代では「安心できる年金制度の構築」、男性 30 代と女性の満 13～19 歳・30 代では「子育てしやすい制度や環境の整備」。

表Ⅲ-5-7. 豊かな生活を実現するための課題(上位3)

(注)()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	国の財政の健全化(56)	雇用の安定の確保(39)	安心できる年金制度(38)
東京<N=1,125>	国の財政の健全化(57)	雇用の安定の確保(39)	安心できる年金制度(38)
大阪<N=675>	国の財政の健全化(55)	雇用の安定の確保(40)	安心できる年金制度(38)
男性<N=904>	国の財政の健全化(58)	雇用の安定の確保(37)	安心できる年金制度(34)
女性<N=896>	国の財政の健全化(55)	安心できる年金制度(42)	雇用の安定の確保(42)
男 13～19 歳<N=71>	国の財政の健全化(42)	雇用の安定の確保(28)	物価の安定／スポーツや文化・芸術の振興(各 25)
男 20 代<N=137>	国の財政の健全化(53)	雇用の安定の確保(34)	子育てしやすい制度や環境の整備(29)
男 30 代<N=186>	国の財政の健全化(61)	雇用の安定の確保／子育てしやすい制度や環境の整備(各 39)	
男 40 代<N=170>	国の財政の健全化(58)	雇用の安定の確保(33)	国内産業の活性化(32)
男 50 代<N=132>	国の財政の健全化(64)	雇用の安定の確保(46)	安心できる年金制度(40)
男 60 代<N=152>	国の財政の健全化(59)	安心できる年金制度(46)	雇用安定の確保／再生可能エネルギー開発・推進(各 34)
男 70～74 歳<N=56>	国の財政の健全化(66)	雇用の安定の確保(41)	安心できる年金制度(38)
女 13～19 歳<N=68>	国の財政の健全化(41)	子育てしやすい制度や環境の整備(32)	雇用の安定の確保(29)
女 20 代<N=133>	国の財政の健全化(53)	雇用の安定の確保(41)	子育てしやすい制度や環境の整備(40)
女 30 代<N=180>	国の財政の健全化(51)	子育てしやすい制度や環境の整備(41)	安心できる年金制度(40)
女 40 代<N=160>	国の財政の健全化(46)	安心できる年金制度(42)	雇用の安定の確保(38)
女 50 代<N=130>	国の財政の健全化(58)	雇用の安定の確保(57)	安心できる年金制度(48)
女 60 代<N=162>	国の財政の健全化(65)	安心できる年金制度(56)	雇用の安定の確保(43)
女 70～74 歳<N=63>	国の財政の健全化(70)	雇用の安定の確保(43)	安心できる年金制度(40)

東京・大阪間には「災害対策の整備・充実」で有意差がみられ、大阪より東京のほうが高い。

男女間でみると、「デフレ経済・円高からの脱却」「国民所得の向上」「国内総生産（GDP）の拡大」「科学技術力の向上」「スポーツや文化・芸術の振興」の 5 項目は女性より男性、「雇用安定の確保」「安心できる年金制度の構築」「子育てのしやすい制度や環境の整備」「食の安心・安全の確保」「災害対策の整備・充実」「介護対策の充実」「自然環境の保護」「女性の再就職のための制度や環境の整備」の 8 項目は男性より女性のほうが高い。

表Ⅲ-5-8. 豊かな生活を実現させるための課題

(%)

	N	国の財政健全化	雇用安定の確保	年金制度の構築 安心できる	子育てしやすい 制度や環境の整備	再生可能 エネルギーの 開発・推進	国内産業の 活性化	物価の安定	円高からの脱却 デフレ経済・	食の安心・ 安全の確保	国民所得の向上	災害対策の 整備・充実	現役世代の 将来負担の 軽減化	
TOTAL	1,800	56.3	39.2	38.0	28.6	24.9	23.4	20.7	20.1	20.0	19.7	17.2	15.4	
東京	1,125	56.8	38.9	37.9	29.9	25.6	22.6	19.4	19.6	20.6	18.6	18.9	15.4	
大阪	675	55.4	39.7	38.2	26.4	23.9	24.7	23.0	21.0	19.0	21.6	14.2	15.6	
男	904	58.1	36.7	33.6	26.3	26.4	24.7	21.7	25.2	16.0	21.8	13.9	16.2	
女	896	54.5	41.7	42.4	30.8	23.4	22.1	19.8	15.0	24.0	17.6	20.4	14.7	
男	13~19歳	71	42.3	28.2	19.7	11.3	12.7	2.8	25.4	16.9	9.9	15.5	5.6	
	20代	137	52.6	34.3	24.8	29.2	24.1	16.1	15.3	21.2	22.6	14.6	17.5	
	30代	186	60.8	39.2	32.3	39.2	23.1	19.9	20.4	18.3	26.9	13.4	22.0	
	40代	170	58.2	32.9	30.6	30.6	28.8	31.8	19.4	29.4	14.1	24.1	11.2	20.0
	50代	132	63.6	46.2	40.2	17.4	29.5	36.4	26.5	31.8	14.4	16.7	15.9	13.6
	60代	152	59.2	34.2	46.1	22.4	34.2	27.6	25.7	28.3	23.7	20.4	15.1	14.5
	70~74歳	56	66.1	41.1	37.5	14.3	25.0	32.1	21.4	32.1	19.6	26.8	12.5	5.4
女	13~19歳	68	41.2	29.4	17.6	32.4	19.1	4.4	20.6	8.8	27.9	5.9	25.0	10.3
	20代	133	52.6	40.6	39.1	39.8	13.5	18.0	15.0	10.5	15.0	15.8	20.3	14.3
	30代	180	51.1	38.3	40.0	40.6	23.3	16.1	13.9	12.8	30.0	18.9	23.9	15.6
	40代	160	46.3	38.1	41.9	23.1	26.3	28.8	20.6	12.5	25.0	26.9	17.5	18.8
	50代	130	57.7	56.9	47.7	25.4	26.9	25.4	21.5	20.0	18.5	20.0	16.9	15.4
	60代	162	64.8	42.6	55.6	28.4	27.2	25.3	26.5	18.5	25.9	13.0	19.1	11.7
	70~74歳	63	69.8	42.9	39.7	19.0	25.4	34.9	22.2	23.8	25.4	14.3	23.8	14.3

	介護対策の充実	犯罪対策・ 治安の確保	新たな雇用の 創出	自然環境の保護	心の健康を保つ ことのできる 環境の整備	国内総生産 の拡大	質の高い医療 サービスの充実	女性の再就職の ための制度や 環境の整備	農林水産業の 再生	地域の活性化	グローバルな 人材の育成	質の高い教育を 受ける機会の 確保	科学技術力の 向上	
TOTAL	14.2	12.1	11.7	10.1	9.4	8.1	7.6	7.0	5.9	5.7	5.5	5.0	5.0	
東京	14.9	12.4	11.6	10.1	9.6	8.1	8.1	6.8	6.5	6.4	5.3	5.4	5.4	
大阪	12.9	11.6	11.9	9.9	9.0	8.1	6.8	7.4	4.9	4.4	5.8	4.3	4.3	
男	12.3	11.9	13.1	8.6	8.3	9.6	7.6	3.5	6.5	5.4	5.8	5.8	7.2	
女	16.1	12.2	10.3	11.5	10.5	6.6	7.6	10.5	5.2	5.9	5.2	4.2	2.8	
男	13~19歳	8.5	12.7	8.5	7.0	8.5	4.2	12.7	4.2	1.4	1.4	2.8	8.5	
	20代	8.0	13.9	16.8	10.9	5.1	15.3	5.8	3.6	5.1	10.2	8.8	7.3	8.8
	30代	14.0	10.2	12.9	7.0	6.5	9.7	8.6	3.8	3.8	5.9	4.8	6.5	6.5
	40代	12.4	10.0	17.1	8.2	11.2	10.0	5.3	2.4	5.3	4.1	5.9	9.4	7.1
	50代	15.2	9.8	18.9	6.8	6.8	6.8	8.3	3.8	8.3	3.8	6.8	4.5	6.8
	60代	13.2	14.5	6.6	11.2	9.2	7.2	5.9	3.3	11.2	5.9	3.9	3.3	7.9
	70~74歳	12.5	16.1	1.8	8.9	14.3	14.3	12.5	5.4	12.5	3.6	7.1	1.8	3.6
女	13~19歳	14.7	19.1	4.4	25.0	14.7	-	4.4	13.2	2.9	11.8	-	8.8	
	20代	11.3	14.3	11.3	12.8	12.0	10.5	6.8	15.0	3.8	8.3	7.5	3.0	2.3
	30代	15.0	16.1	10.6	10.0	12.2	7.2	9.4	15.0	2.8	3.9	6.1	7.8	2.8
	40代	17.5	8.8	9.4	10.6	12.5	5.0	9.4	6.9	6.3	3.1	5.6	7.5	5.0
	50代	22.3	8.5	13.1	10.0	8.5	9.2	7.7	7.7	3.8	6.9	3.8	2.3	1.5
	60代	17.3	11.1	10.5	11.1	6.2	5.6	5.6	6.8	9.9	9.9	1.2	2.5	-
	70~74歳	11.1	7.9	9.5	4.8	7.9	4.8	7.9	9.5	6.3	6.3	3.2	1.6	1.6

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度95%水準で有意差があることを示す。

表Ⅲ-5-8. 豊かな生活を実現させるための課題(つづき) (％)

		世界に通用する 環境技術力の 強化	アジア諸国との 人的交流の推進 経済・文化・	居住の安定の 確保	省エネルギー 低炭素社会・ 社会の実現	個性が発揮でき それぞれの人の 環境の整備	スポーツや文化 芸術の振興	個人の社会的 孤立化の解消	起業を促進 する制度や 環境の整備	担う意識の拡大 生活者が公益を	個人の情報格差 の解消	企業の海外進出 の推進	観光立国の実現	「中」にはない
TOTAL		4.3	3.9	3.7	3.4	3.3	3.2	2.1	1.7	1.7	1.4	0.8	0.8	1.8
東京		4.2	3.9	3.6	2.9	3.5	2.9	2.2	1.7	1.6	1.1	0.8	0.7	1.3
大阪		4.4	3.9	3.7	4.3	3.0	3.7	1.8	1.8	1.8	2.1	0.9	1.0	2.5
男		3.8	4.1	3.4	3.5	3.2	4.4	1.8	2.0	1.9	1.4	0.6	1.0	2.2
女		4.8	3.7	3.9	3.3	3.3	2.0	2.3	1.5	1.5	1.5	1.1	0.7	1.3
男	13～19歳	4.2	9.9	4.2	5.6	8.5	25.4	1.4	1.4	-	4.2	-	-	16.9
	20代	2.2	3.6	2.2	5.8	8.0	6.6	2.9	3.6	3.6	2.2	0.7	-	2.9
	30代	3.2	1.1	5.9	1.6	1.6	3.2	1.6	3.8	1.1	1.6	0.5	2.2	1.6
	40代	7.6	2.9	2.4	2.4	1.8	2.4	3.5	-	2.4	1.2	1.2	1.2	-
	50代	3.0	3.8	2.3	3.8	1.5	-	0.8	1.5	0.8	-	-	0.8	-
	60代	3.3	4.6	2.6	3.3	0.7	1.3	0.7	1.3	2.6	1.3	0.7	1.3	0.7
	70～74歳	-	10.7	5.4	5.4	5.4	1.8	-	1.8	1.8	-	-	-	-
女	13～19歳	2.9	2.9	4.4	5.9	2.9	10.3	-	-	-	2.9	4.4	2.9	7.4
	20代	6.0	3.8	3.8	5.3	6.8	3.8	1.5	1.5	0.8	-	1.5	1.5	1.5
	30代	4.4	2.8	3.9	3.9	3.9	1.7	3.9	1.7	1.1	2.8	-	-	0.6
	40代	6.3	5.0	4.4	2.5	1.9	0.6	0.6	1.3	2.5	0.6	1.3	-	0.6
	50代	3.8	3.1	1.5	1.5	2.3	-	3.1	0.8	1.5	2.3	0.8	-	-
	60代	3.7	3.7	4.9	3.1	3.1	0.6	2.5	1.2	2.5	1.2	1.2	0.6	0.6
	70～74歳	6.3	4.8	4.8	1.6	1.6	1.6	4.8	4.8	-	-	-	1.6	3.2

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

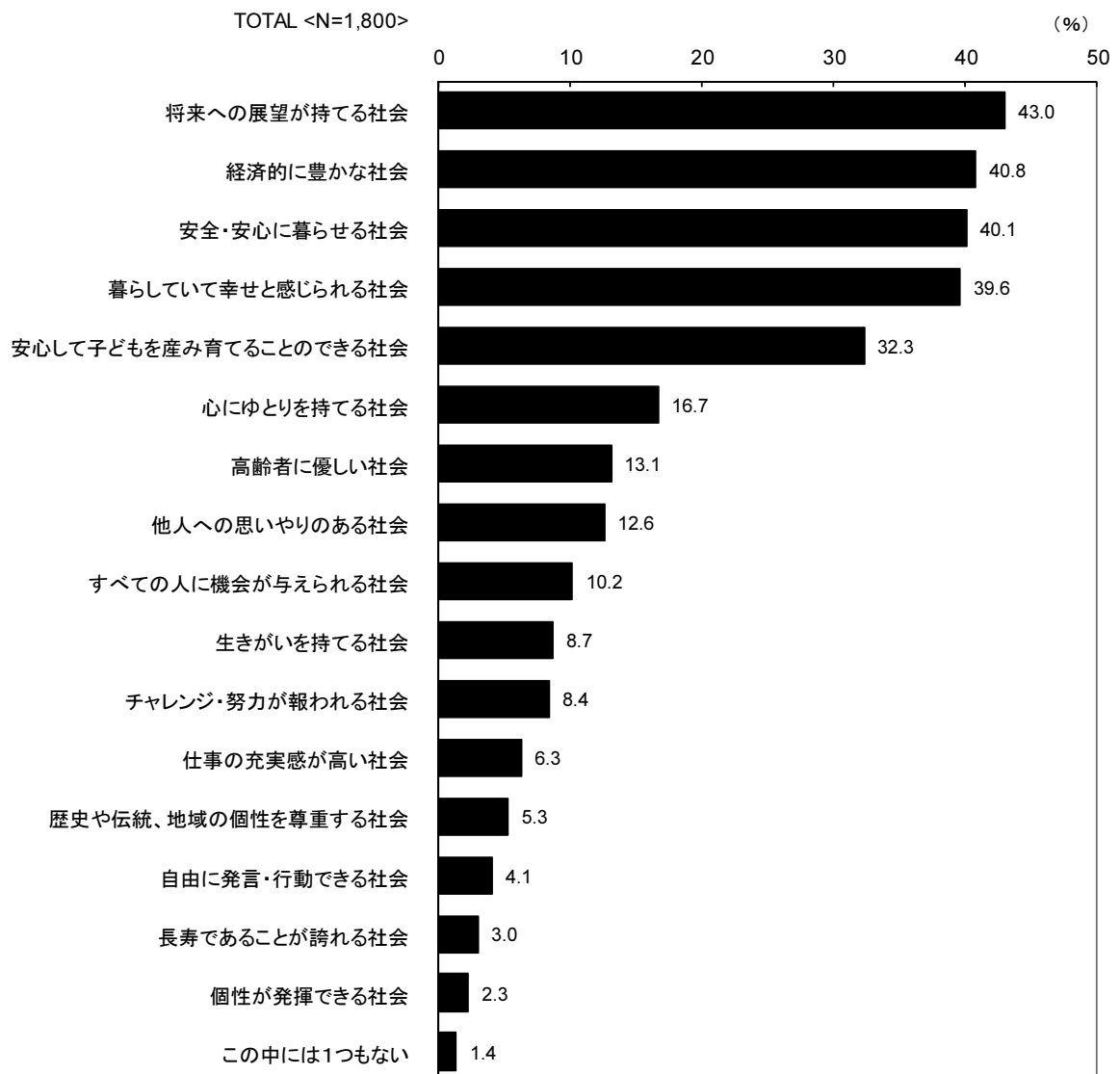
(9) 日本の社会の今後の目標

日本は今後どのようなことを社会の目標にしていくべきと思うか、と問うた結果を TOTAL でみると、「将来への展望が持てる社会」が 43%で最も高く、以下「経済的に豊かな社会」「安全・安心に暮らせる社会」（それぞれ 40%台）、「暮らしていて幸せと感じられる社会」「安心して子どもを産み育てることのできる社会」（それぞれ 30%台）が続いている。

東京・大阪間に有意差がみられるのは 2 項目で、「将来への展望が持てる社会」は大阪より東京、「チャレンジ・努力が報われる社会」は東京より大阪のほうが高い。

男女間には 5 項目で有意差がみられ、「生きがいを持てる社会」「歴史や伝統、地域の個性を尊重する社会」「自由に発言・行動できる社会」の 3 項目は大阪より東京、「安全・安心に暮らせる社会」「安心して子どもを産み育てることのできる社会」の 2 項目は東京より大阪のほうが高い。

図Ⅲ-5-9. 日本の社会の今後の目標



東京・大阪、男女別にみた 1 位は、東京と男性では「将来の展望が持てる社会」、大阪では「経済的に豊かな社会」、女性では「安全・安心に暮らせる社会」。

性・年齢別にみた 1 位は、男性 30 代以下と満 70～74 歳、女性 20 代以下では「経済的に豊かな社会」（女性満 13～19 歳では「安全・安心に暮らせる社会」も同率で 1 位）、男性 40 代～60 代と女性 30 代・50 代以上では「将来の展望が持てる社会」、女性 40 代では「暮らしていて幸せと感じられる社会」（男性満 70～74 歳も「経済的に豊かな社会」と同率で 1 位）。

表Ⅲ-5-9. 日本の社会の今後の目標(上位3)

(注) ()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	将来の展望が持てる社会(43)	経済的に豊かな社会(41)	安全・安心に暮らせる社会(40)
東京<N=1,125>	将来の展望が持てる社会(45)	経済的に豊かな社会／安全・安心に暮らせる社会(各 40)	
大阪<N=675>	経済的に豊かな社会(41)	将来の展望が持てる社会(40)	安全・安心に暮らせる社会(40)
男性<N=904>	将来の展望が持てる社会(43)	経済的に豊かな社会(43)	暮らしていて幸せと感じられる社会(38)
女性<N=896>	安全・安心に暮らせる社会(43)	将来の展望が持てる社会(43)	暮らしていて幸せと感じられる社会(41)
男 13～19 歳<N=71>	経済的に豊かな社会(48)	将来の展望が持てる社会(38)	暮らしていて幸せと感じられる社会(31)
男 20 代<N=137>	経済的に豊かな社会(46)	暮らしていて幸せと感じられる社会(37)	将来の展望が持てる社会(36)
男 30 代<N=186>	経済的に豊かな社会(44)	将来の展望が持てる社会(39)	安全・安心に暮らせる社会(37)
男 40 代<N=170>	将来の展望が持てる社会(48)	経済的に豊かな社会(42)	暮らしていて幸せと感じられる社会(41)
男 50 代<N=132>	将来の展望が持てる社会(55)	経済的に豊かな社会(45)	安全・安心に暮らせる社会(42)
男 60 代<N=152>	将来の展望が持てる社会(43)	安全・安心に暮らせる社会(43)	暮らしていて幸せと感じられる社会(42)
男 70～74 歳<N=56>	経済的に豊かな社会／暮らしていて幸せと感じられる社会(各 43)		将来の展望が持てる社会(39)
女 13～19 歳<N=68>	経済的に豊かな社会／安全・安心に暮らせる社会(各 43)		暮らしていて幸せと感じられる社会(37)
女 20 代<N=133>	経済的に豊かな社会(44)	安全・安心に暮らせる社会(41)	安心して子どもを産み育てられる社会(38)
女 30 代<N=180>	将来の展望が持てる社会(46)	安全・安心に暮らせる社会(44)	暮らしていて幸せと感じられる社会(42)
女 40 代<N=160>	暮らしていて幸せと感じられる社会(49)	安全・安心に暮らせる社会(44)	経済的に豊かな社会(36)
女 50 代<N=130>	将来の展望が持てる社会(56)	安全・安心に暮らせる社会(48)	暮らしていて幸せと感じられる社会(42)
女 60 代<N=162>	将来の展望が持てる社会(51)	安心して子どもを産み育てられる社会(43)	安全・安心に暮らせる社会(42)
女 70～74 歳<N=63>	将来の展望が持てる社会(54)	経済的に豊かな社会(44)	暮らしていて幸せと感じられる社会／安心して子どもを産み育てられる社会(各 38)

表Ⅲ-5-10. 日本の社会の今後の目標

(%)

	N	将来への展望が 持てる社会	経済的に 豊かな社会	暮らせる社会 安全・安心に	暮らして 幸せと 安心して	感じられる社会 子どもを産み 安心して	心にゆとりを 持てる社会	高齢者に 優しい社会	他人への 思いやりの ある社会	与えられる社会 機会が すべての人に	生きがい 持てる社会	チャレンジ・努力 が報われる社会	仕事の充実感が 高い社会
TOTAL	1,800	43.0	40.8	40.1	39.6	32.3	16.7	13.1	12.6	10.2	8.7	8.4	6.3
東京	1,125	44.7	40.4	40.4	40.1	33.7	16.1	13.1	12.7	9.7	8.0	6.9	6.1
大阪	675	40.1	41.3	39.6	38.7	29.9	17.6	13.2	12.4	11.1	9.9	11.0	6.5
男	904	43.1	42.8	37.3	38.1	27.5	16.3	13.1	12.3	10.4	10.4	8.7	6.7
女	896	42.9	38.7	43.0	41.1	37.1	17.1	13.2	12.9	10.0	7.0	8.1	5.8
男	13~19歳	71	38.0	47.9	29.6	31.0	8.5	8.5	8.5	8.5	18.3	11.3	4.2
	20代	137	35.8	46.0	32.1	37.2	22.6	22.6	6.6	10.2	12.4	7.3	10.9
	30代	186	39.2	43.5	37.1	32.8	35.5	21.0	9.7	13.4	10.8	8.6	11.3
	40代	170	47.6	42.4	37.1	40.6	27.1	17.6	12.9	14.1	10.6	8.8	8.8
	50代	132	54.5	44.7	42.4	40.2	25.8	10.6	15.2	11.4	10.6	9.1	5.3
	60代	152	43.4	35.5	42.8	42.1	32.2	15.1	21.7	11.2	7.9	11.8	5.9
	70~74歳	56	39.3	42.9	33.9	42.9	30.4	7.1	17.9	17.9	12.5	17.9	7.1
女	13~19歳	68	27.9	42.6	42.6	36.8	27.9	17.6	8.8	8.8	8.8	11.8	4.4
	20代	133	33.1	43.6	40.6	36.1	37.6	19.5	6.8	21.1	13.5	4.5	9.8
	30代	180	45.6	39.4	44.4	42.2	37.8	18.9	12.2	15.6	9.4	3.3	10.0
	40代	160	30.6	36.3	44.4	48.8	30.0	20.0	16.9	10.6	11.3	8.1	10.6
	50代	130	56.2	35.4	47.7	42.3	40.8	13.1	12.3	14.6	4.6	6.9	5.4
	60代	162	51.2	35.2	42.0	38.3	43.2	14.2	18.5	9.9	9.3	9.9	5.6
	70~74歳	63	54.0	44.4	33.3	38.1	38.1	14.3	12.7	3.2	15.9	7.9	9.5

	尊重する社会 地域の個性を 歴史や伝統、 自由に発言、 行動できる社会	個性が発揮 できる社会	長寿であること が誇れる社会	この中にはない	
TOTAL	5.3	4.1	3.0	2.3	
東京	6.0	3.8	3.4	2.5	
大阪	4.3	4.4	2.4	1.9	
男	6.4	5.8	3.2	2.9	
女	4.2	2.3	2.8	1.7	
男	13~19歳	5.6	8.5	4.2	7.0
	20代	10.2	10.9	1.5	5.1
	30代	8.1	4.8	3.2	2.7
	40代	5.9	4.1	1.8	1.8
	50代	4.5	5.3	1.5	0.8
	60代	2.6	3.3	7.2	2.6
	70~74歳	8.9	5.4	3.6	1.8
女	13~19歳	5.9	8.8	-	5.9
	20代	8.3	2.3	1.5	3.0
	30代	3.3	2.2	2.8	1.1
	40代	5.6	0.6	2.5	1.9
	50代	1.5	0.8	3.8	1.5
	60代	2.5	3.1	3.7	-
	70~74歳	3.2	1.6	4.8	-

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

(10) 関心を持っていること、特に不安を感じていること

〔関心を持っていること〕

TOTAL でみると、「食の安心・安全」「収入」（それぞれ 50%台）、「地震・台風・洪水などの自然災害」「年金制度」（それぞれ 40%台）、「尖閣諸島・竹島などの領有権問題」「住宅の安全性（耐震性や防犯性など）」「原発の今後」「税金の使われ方」「異常気象」「景気・株価」「子どもの将来」「雇用」「政治」「子どもの遊び仲間・いじめ」「老後の生活設計」（それぞれ 30%台）が上位。

東京・大阪間に有意差がみられるのは、「収入」「地震・台風・洪水などの自然災害」「尖閣諸島・竹島などの領有権問題」「住宅の安全性（耐震性や防犯性など）」「異常気象」「雇用」「災害対策」「環境問題」「親の介護」「犯罪・通り魔・暴力」の 10 項目で、10 項目とも大阪より東京のほうが高い。

男女間には 36 項目中 24 項目で有意差がみられ、女性より男性のほうが高いのは「景気・株価」「雇用」「政治」「円高」「ヨーロッパ発の経済危機」「国債の残高」の 6 項目で、「食の安心・安全」「地震・台風・洪水などの自然災害」「住宅の安全性（耐震性や防犯性など）」「異常気象」「子どもの遊び仲間・いじめ」をはじめとした 18 項目では男性より女性のほうが高い。

性・年齢別にみた 1 位は、男性満 70～74 歳と女性 30 代以上では「食の安心・安全」、男性 20 代～50 代と女性 20 代では「収入」、男女満 13～19 歳では「進学・受験」、男性 60 代では「年金制度」。

〔特に不安を感じていること〕

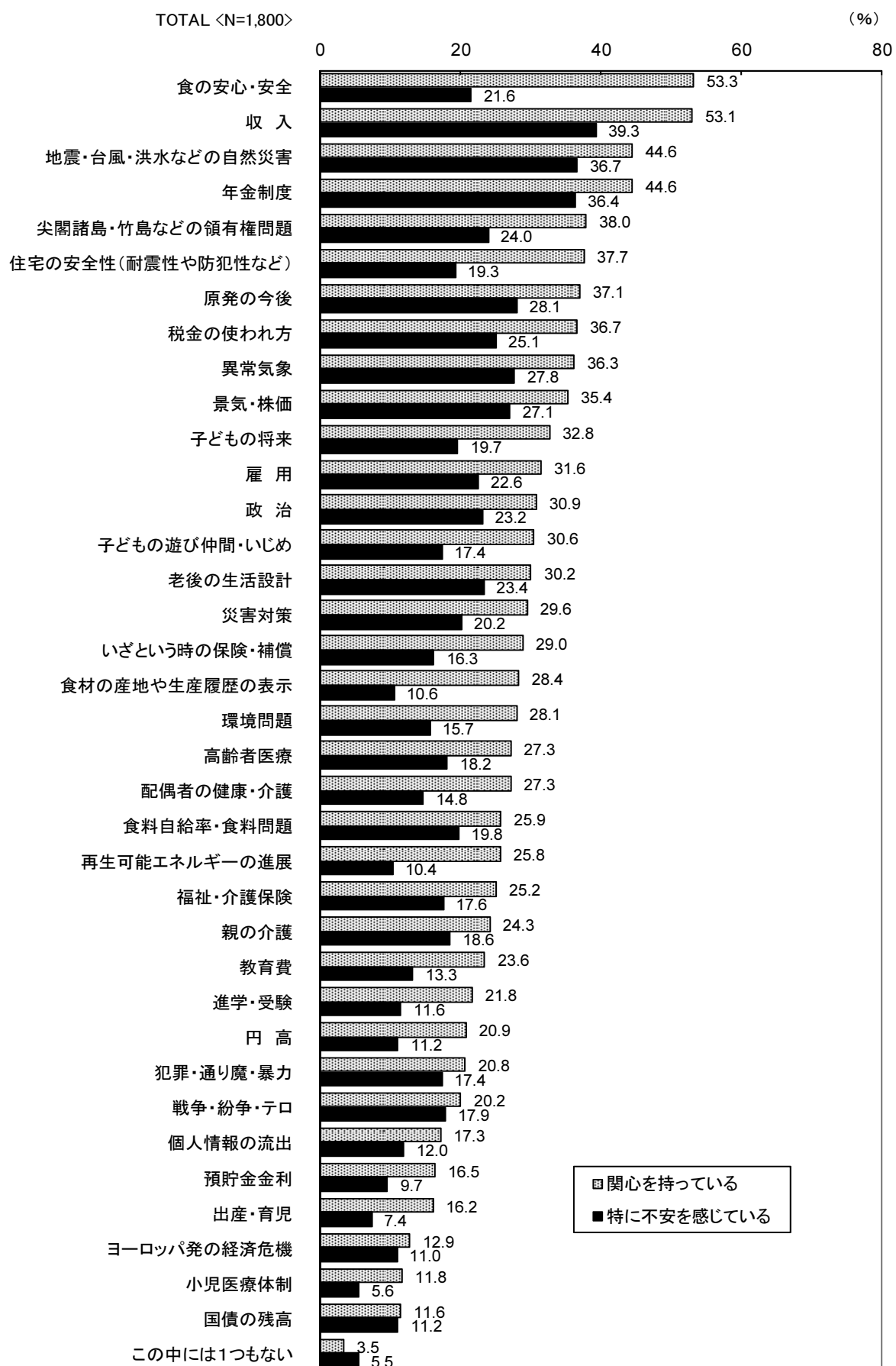
TOTAL でみると、「収入」が 39%で最も高く、以下「地震・台風・洪水などの自然災害」「年金制度」（それぞれ 30%台）、「原発の今後」「異常気象」「景気・株価」「税金の使われ方」「尖閣諸島・竹島などの領有権問題」「老後の生活設計」「政治」「雇用」「食の安心・安全」「災害対策」（それぞれ 20%台）が続いている。

東京・大阪間に有意差がみられ、大阪より東京のほうが高いのは「地震・台風・洪水などの自然災害」「災害対策」の 2 項目、東京より大阪のほうが高いのは「いざという時の保険・補償」「預貯金金利」の 2 項目。

男女間には 36 項目中 21 項目で有意差がみられ、女性より男性のほうが高いのは「収入」「景気・株価」「政治」「雇用」「国債の残高」「円高」「ヨーロッパ発の経済危機」の 7 項目で、「地震・台風・洪水などの自然災害」「異常気象」「老後の生活設計」「食の安心・安全」「災害対策」をはじめとした 14 項目では男性より女性のほうが高い。

性・年齢別にみた 1 位は、男性 20 代～50 代では「収入」、男性 60 代以上と女性 50 代では「年金制度」、女性満 13～19 歳と 30 代・40 代・60 代以上では「地震・台風・洪水などの自然災害」、男性満 13～19 歳では「進学・受験」。

図Ⅲ-5-10. 関心を持っていること、特に不安を感じていること



表Ⅲ-5-11. 関心を持っていること(上位3)

(注)()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	食の安心・安全(53)	収入(53)	地震等の自然災害 ／年金制度(各 45)
東京<N=1,125>	収入(55)	食の安心・安全(53)	地震等の自然災害(50)
大阪<N=675>	食の安心・安全(54)	収入(50)	年金制度(42)
男性<N=904>	収入(55)	年金制度(46)	食の安心・安全(44)
女性<N=896>	食の安心・安全(63)	収入(51)	地震等の自然災害(50)
男 13～19 歳<N=71>	進学・受験(47)	食の安心・安全(37)	収入／雇用(各 34)
男 20 代<N=137>	収入(59)	雇用(46)	景気・株価(37)
男 30 代<N=186>	収入(69)	景気・株価(45)	食の安心・安全(42)
男 40 代<N=170>	収入(58)	年金制度(51)	子どもの将来(45)
男 50 代<N=132>	収入(64)	年金制度(60)	景気・株価(52)
男 60 代<N=152>	年金制度(63)	原発の今後(54)	食の安心・安全(51)
男 70～74 歳<N=56>	食の安心・安全(64)	領有権問題／原発の今後(各 57)	
女 13～19 歳<N=68>	進学・受験(49)	食の安心・安全(44)	地震等の自然災害(41)
女 20 代<N=133>	収入(62)	食の安心・安全(52)	地震等の自然災害(44)
女 30 代<N=180>	食の安心・安全(65)	収入(63)	子どもの遊び仲間・いじめ(55)
女 40 代<N=160>	食の安心・安全(59)	収入(58)	子どもの将来(57)
女 50 代<N=130>	食の安心・安全(75)	年金制度(61)	老後の生活設計(54)
女 60 代<N=162>	食の安心・安全(69)	年金制度(57)	地震等の自然災害(56)
女 70～74 歳<N=63>	食の安心・安全(70)	高齢者医療(67)	地震等の自然災害(56)

表Ⅲ-5-12. 特に不安を感じていること(上位3)

(注)()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	収入(39)	地震等の自然災害(37)	年金制度(36)
東京<N=1,125>	地震等の自然災害(40)	収入(38)	年金制度(35)
大阪<N=675>	収入(42)	年金制度(39)	地震等の自然災害(32)
男性<N=904>	収入(42)	年金制度(37)	地震等の自然災害(31)
女性<N=896>	地震等の自然災害(42)	収入(37)	年金制度(36)
男 13～19 歳<N=71>	進学・受験(39)	地震等の自然災害(32)	雇用／税金の使われ方(各 30)
男 20 代<N=137>	収入(39)	雇用(38)	景気・株価(30)
男 30 代<N=186>	収入(47)	年金制度(34)	地震等の自然災害(33)
男 40 代<N=170>	収入(47)	年金制度(39)	景気・株価(29)
男 50 代<N=132>	収入(48)	年金制度(46)	景気・株価(35)
男 60 代<N=152>	年金制度(45)	収入(39)	地震等の自然災害(38)
男 70～74 歳<N=56>	年金制度(54)	原発の今後(48)	地震等の自然災害(46)
女 13～19 歳<N=68>	地震等の自然災害(40)	領有権問題(38)	進学・受験(37)
女 20 代<N=133>	収入(42)	地震等の自然災害(37)	雇用(35)
女 30 代<N=180>	地震等の自然災害(42)	収入(40)	食の安心・安全(36)
女 40 代<N=160>	地震等の自然災害(43)	収入(41)	年金制度(36)
女 50 代<N=130>	年金制度(52)	老後の生活設計(41)	収入(39)
女 60 代<N=162>	地震等の自然災害(49)	年金制度(41)	老後の生活設計(40)
女 70～74 歳<N=63>	地震等の自然災害(48)	異常気象(44)	高齢者医療(40)

表Ⅲ-5-13. 関心を持っていること

(%)

	N	食の安心・安全	収入	地震・台風・洪水などの自然災害	年金制度	尖閣諸島・竹島などの領有権問題	(耐震防犯性等)住宅の安全性	原発の今後	税金の使われ方	異常気象	景気・株価	子どもの将来	雇用	
TOTAL	1,800	53.3	53.1	44.6	44.6	38.0	37.7	37.1	36.7	36.3	35.4	32.8	31.6	
東京	1,125	52.8	55.0	49.7	46.0	39.8	40.8	38.8	37.2	39.1	36.8	33.6	34.0	
大阪	675	54.2	49.8	36.0	42.4	35.0	32.6	34.2	35.7	31.6	33.2	31.4	27.7	
男	904	43.8	55.2	38.7	45.6	39.2	33.4	37.4	36.2	32.3	41.2	31.2	34.8	
女	896	62.9	50.9	50.4	43.6	36.8	42.1	36.8	37.2	40.3	29.7	34.4	28.3	
男	13~19歳	71	36.6	33.8	26.8	16.9	25.4	21.1	19.7	18.3	26.8	12.7	33.8	
	20代	137	32.1	59.1	29.9	31.4	35.8	24.8	25.5	31.4	29.2	16.8	46.0	
	30代	186	41.9	69.4	36.6	34.4	35.5	29.0	27.4	33.3	22.6	40.3	41.4	
	40代	170	43.5	58.2	40.0	51.2	40.0	34.7	37.6	38.8	34.1	44.1	37.6	
	50代	132	45.5	63.6	38.6	59.8	38.6	37.9	44.7	41.7	40.9	51.5	38.6	
	60代	152	51.3	43.4	50.0	63.2	46.1	45.4	53.9	41.4	37.5	36.8	21.1	17.1
	70~74歳	56	64.3	28.6	48.2	55.4	57.1	35.7	57.1	42.9	50.0	35.7	19.6	17.9
女	13~19歳	68	44.1	22.1	41.2	16.2	33.8	27.9	22.1	23.5	27.9	13.2	25.0	
	20代	133	51.9	62.4	43.6	33.1	24.8	35.3	27.1	39.1	39.1	16.5	37.6	
	30代	180	65.0	63.3	54.4	36.1	39.4	46.7	40.0	35.0	42.2	53.3	32.8	
	40代	160	59.4	57.5	48.1	41.3	34.4	37.5	33.1	37.5	35.6	56.9	30.0	
	50代	130	75.4	50.0	50.8	60.8	38.5	49.2	45.4	36.9	45.4	33.8	28.5	
	60代	162	68.5	45.1	55.6	57.4	42.6	47.5	42.6	42.6	43.2	22.8	18.5	
	70~74歳	63	69.8	22.2	55.6	52.4	46.0	41.3	41.3	39.7	44.4	14.3	20.6	

	政治	子どもの遊び仲間・いじめ	老後の生活設計	災害対策	いざという時の保険・補償	生産履歴の表示食材の産地や	環境問題	高齢者医療	配偶者の健康・介護	食料自給率・食料問題	再生可能エネルギーの進展	福祉・介護保険	親の介護
TOTAL	30.9	30.6	30.2	29.6	29.0	28.4	28.1	27.3	27.3	25.9	25.8	25.2	24.3
東京	30.8	31.6	30.5	32.9	30.0	27.4	30.4	28.2	27.6	27.0	27.0	25.3	26.8
大阪	31.1	28.9	29.6	24.0	27.4	30.1	24.1	25.8	27.0	24.1	23.9	24.9	20.1
男	37.3	26.1	26.9	24.8	25.0	20.8	26.3	24.1	24.4	24.8	27.4	23.3	22.0
女	24.4	35.2	33.5	34.4	33.0	36.0	29.8	30.5	30.2	27.1	24.2	27.0	26.6
男	13~19歳	21.1	16.9	2.8	19.7	8.5	16.9	18.3	5.6	4.2	25.4	8.5	7.0
	20代	35.0	21.9	8.8	24.8	19.7	13.1	24.8	13.9	10.9	21.9	10.9	14.6
	30代	34.4	36.0	16.1	15.6	24.2	11.8	19.9	11.3	14.5	16.1	11.8	22.0
	40代	37.1	32.4	30.6	27.6	27.1	22.4	28.8	22.9	22.4	25.9	31.2	34.1
	50代	42.4	19.7	43.2	25.0	23.5	24.2	28.0	28.0	29.5	29.5	28.0	31.1
	60代	40.8	21.1	45.4	30.3	37.5	28.3	30.9	44.7	47.4	29.6	41.4	16.4
	70~74歳	51.8	25.0	37.5	37.5	25.0	41.1	37.5	53.6	48.2	32.1	30.4	39.3
女	13~19歳	16.2	27.9	1.5	30.9	7.4	14.7	23.5	8.8	1.5	23.5	11.8	13.2
	20代	23.3	30.8	17.3	33.1	24.8	24.1	30.1	14.3	14.3	21.8	23.3	26.3
	30代	21.7	55.0	23.9	38.9	40.6	38.9	30.6	20.6	25.6	22.8	26.1	26.1
	40代	16.9	44.4	35.0	29.4	31.3	30.0	25.0	18.8	31.3	23.8	21.3	40.6
	50代	25.4	24.6	53.8	37.7	40.0	41.5	35.4	43.1	39.2	26.9	24.6	34.6
	60代	34.0	27.2	53.7	32.1	38.9	46.3	33.3	51.2	43.8	37.7	27.8	20.4
	70~74歳	36.5	14.3	31.7	39.7	31.7	54.0	25.4	66.7	52.4	36.5	27.0	44.4

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度95%水準で有意差があることを示す。

表Ⅲ-5-13. 関心を持っていること(つづき) (%)

		教育費	進学・受験	円高	犯罪・通り魔・暴力	戦争・紛争・テロ	個人情報の流出	預貯金金利	出産・育児	ヨーロッパ発の経済危機	小児医療体制	国債の残高	この中にはない
	TOTAL	23.6	21.8	20.9	20.8	20.2	17.3	16.5	16.2	12.9	11.8	11.6	3.5
	東京	24.6	22.0	21.6	22.4	21.6	18.0	17.2	16.0	13.2	12.4	12.5	3.2
	大阪	21.8	21.5	19.7	18.2	17.8	16.1	15.4	16.6	12.4	10.7	9.9	4.0
	男	21.1	18.6	24.8	18.8	20.6	16.0	14.2	12.4	15.8	9.7	13.7	4.3
	女	26.0	25.1	17.0	22.9	19.8	18.6	18.9	20.1	9.9	13.8	9.4	2.7
男	13~19歳	14.1	46.5	18.3	19.7	23.9	14.1	5.6	4.2	15.5	0.0	2.8	15.5
	20代	16.8	12.4	18.2	20.4	22.6	20.4	12.4	17.5	17.5	9.5	13.1	9.5
	30代	30.1	16.7	21.5	16.1	20.4	15.6	12.9	20.4	12.4	11.3	8.6	3.8
	40代	34.1	28.8	22.9	25.3	22.9	17.1	14.1	18.8	14.7	16.5	15.3	2.9
	50代	20.5	22.0	31.1	15.2	16.7	13.6	12.1	5.3	15.9	6.8	15.2	0.8
	60代	7.2	3.9	28.3	17.8	18.4	14.5	19.1	3.3	14.5	7.2	19.1	0.7
	70~74歳	10.7	5.4	41.1	14.3	19.6	16.1	25.0	5.4	30.4	10.7	23.2	1.8
女	13~19歳	11.8	48.5	7.4	26.5	27.9	17.6	2.9	11.8	7.4	7.4	8.8	13.2
	20代	21.1	15.0	19.5	19.5	18.0	21.1	15.0	26.3	9.0	13.5	10.5	4.5
	30代	43.9	32.8	13.9	30.6	24.4	21.1	17.2	46.7	8.9	27.2	9.4	1.1
	40代	48.1	47.5	12.5	21.9	15.0	16.9	19.4	18.1	6.3	12.5	1.9	0.6
	50代	18.5	17.7	18.5	20.8	20.8	15.4	20.8	6.9	10.8	7.7	7.7	0.8
	60代	8.6	8.0	24.7	19.8	19.8	20.4	29.0	8.6	16.0	11.7	13.6	1.2
	70~74歳	4.8	1.6	19.0	19.0	11.1	14.3	17.5	1.6	9.5	4.8	19.0	4.8

表Ⅲ-5-14. 特に不安を感じていること (%)

	N	収入	地震・台風・洪水などの自然災害	年金制度	原発の今後	異常気象	景気・株価	税金の使われ方	尖閣諸島・竹島などの領有権問題	老後の生活設計	政治	雇用	食の安心・安全	
	TOTAL	1,800	39.3	36.7	36.4	28.1	27.8	27.1	25.1	24.0	23.4	23.2	22.6	21.6
	東京	1,125	37.8	39.6	35.1	28.4	29.1	26.4	23.9	24.8	22.4	22.3	21.9	21.9
	大阪	675	41.9	31.7	38.7	27.4	25.8	28.1	27.0	22.7	25.2	24.7	23.9	21.2
	男	904	41.9	31.4	37.3	27.7	23.7	29.4	26.7	24.8	20.5	25.8	24.9	17.9
	女	896	36.7	42.0	35.6	28.5	32.0	24.7	23.4	23.2	26.5	20.6	20.3	25.3
男	13~19歳	71	22.5	32.4	18.3	23.9	21.1	26.8	29.6	28.2	8.5	26.8	29.6	19.7
	20代	137	39.4	24.8	24.8	21.2	19.7	29.9	26.3	28.5	10.2	25.5	38.0	15.3
	30代	186	46.8	33.3	34.4	21.5	22.6	31.7	26.9	24.2	12.4	30.1	26.3	16.1
	40代	170	47.1	27.1	38.8	25.9	21.2	28.8	25.3	23.5	21.2	22.9	25.9	20.6
	50代	132	47.7	27.3	46.2	29.5	21.2	34.8	26.5	21.2	32.6	22.7	22.7	12.9
	60代	152	38.8	37.5	45.4	35.5	29.6	25.0	26.3	23.0	30.9	24.3	13.2	23.0
	70~74歳	56	35.7	46.4	53.6	48.2	37.5	25.0	28.6	30.4	28.6	30.4	16.1	17.9
女	13~19歳	68	20.6	39.7	13.2	22.1	30.9	25.0	25.0	38.2	8.8	23.5	22.1	16.2
	20代	133	42.1	36.8	30.1	19.5	29.3	24.8	30.1	20.3	11.3	25.6	34.6	18.0
	30代	180	40.0	41.7	32.8	32.2	30.6	25.6	26.7	22.8	22.2	23.3	21.1	36.1
	40代	160	41.3	42.5	35.6	23.8	25.6	23.8	21.3	20.6	28.1	13.8	17.5	26.9
	50代	130	39.2	36.9	51.5	37.7	33.8	25.4	19.2	18.5	40.8	17.7	20.0	27.7
	60代	162	34.0	48.8	40.7	29.0	36.4	25.3	24.1	27.8	39.5	23.5	9.9	21.6
	70~74歳	63	23.8	47.6	33.3	34.9	44.4	20.6	11.1	19.0	22.2	15.9	20.6	20.6

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

表Ⅲ-5-14. 特に不安を感じていること(つづき)

(%)

	災害対策	食料自給率・食料問題	子どもの将来	住宅の安全性(耐震防犯性等)	親の介護	高齢者医療	戦争・紛争・テロ	福祉・介護保険	子どもの遊び 仲間・いじめ	犯罪・通り魔・暴力	いざという時の保険・補償	環境問題	配偶者の健康・介護	
TOTAL	20.2	19.8	19.7	19.3	18.6	18.2	17.9	17.6	17.4	17.4	16.3	15.7	14.8	
東京	21.8	21.2	20.3	20.1	18.6	17.7	18.1	16.7	17.6	16.5	14.8	16.7	14.0	
大阪	17.5	17.5	18.8	18.1	18.7	19.0	17.5	19.0	17.2	18.8	18.7	13.9	16.1	
男	15.9	19.4	18.6	15.8	15.8	16.5	18.5	16.2	14.9	14.6	14.0	14.6	13.5	
女	24.4	20.3	20.9	22.9	21.4	19.9	17.3	19.0	20.0	20.2	18.5	16.7	16.2	
男	13~19歳	18.3	18.3	12.7	11.3	7.0	5.6	25.4	11.3	28.2	22.5	14.1	21.1	8.5
	20代	16.1	19.0	9.5	16.1	8.8	10.2	20.4	6.6	15.3	13.1	8.0	12.4	3.6
	30代	14.0	12.9	22.6	10.2	14.5	8.6	19.4	11.3	21.0	16.1	14.0	14.5	8.6
	40代	17.6	21.8	25.3	13.5	27.6	15.3	14.1	16.5	13.5	12.4	13.5	14.7	8.2
	50代	11.4	16.7	24.2	14.4	23.5	16.7	10.6	15.9	6.8	7.6	14.4	9.1	11.4
	60代	15.8	24.3	13.2	23.7	12.5	32.2	20.4	28.3	11.2	16.4	17.8	17.1	27.6
	70~74歳	25.0	28.6	16.1	28.6	3.6	32.1	28.6	28.6	10.7	21.4	19.6	17.9	42.9
女	13~19歳	32.4	20.6	10.3	26.5	8.8	11.8	29.4	10.3	25.0	30.9	8.8	25.0	5.9
	20代	23.3	17.3	14.3	18.8	17.3	8.3	21.1	9.8	21.1	27.1	20.3	18.8	6.0
	30代	22.2	14.4	28.9	20.0	25.6	15.0	18.9	15.0	32.8	25.6	18.3	17.2	12.8
	40代	22.5	13.1	31.9	21.9	35.0	11.9	12.5	15.0	23.8	13.8	16.3	14.4	15.6
	50代	23.1	26.2	24.6	24.6	27.7	26.9	13.8	26.2	10.8	20.0	23.1	17.7	23.1
	60代	25.9	29.0	13.6	26.5	14.2	32.7	17.9	30.2	11.7	13.0	20.4	14.8	25.3
	70~74歳	28.6	27.0	6.3	25.4	3.2	39.7	9.5	25.4	6.3	14.3	17.5	11.1	22.2

	教育費	個人情報の流出	進学・受験	国債の残高	円高	ヨーロッパ発の 経済危機	生産履歴の表示 食材の産地や	再生可能エネ ルギーの進展	預貯金金利	出産・育児	小児医療体制	この中にはない	
TOTAL	13.3	12.0	11.6	11.2	11.2	11.0	10.6	10.4	9.7	7.4	5.6	5.5	
東京	14.4	11.2	11.9	11.2	11.0	10.6	10.7	10.4	8.6	6.8	5.1	5.2	
大阪	11.4	13.3	11.1	11.1	11.4	11.7	10.5	10.5	11.6	8.4	6.4	6.1	
男	11.7	9.6	10.1	13.1	13.2	13.4	8.7	11.7	9.7	5.1	5.4	6.0	
女	14.8	14.4	13.2	9.3	9.2	8.6	12.5	9.2	9.7	9.8	5.7	5.0	
男	13~19歳	9.9	12.7	39.4	12.7	18.3	15.5	9.9	14.1	5.6	7.0	9.9	14.1
	20代	9.5	12.4	5.1	13.9	11.7	13.1	8.0	6.6	7.3	5.1	2.9	10.2
	30代	14.0	9.1	7.5	10.2	9.7	14.5	4.8	11.3	8.6	5.4	8.1	5.4
	40代	20.0	10.0	13.5	12.4	11.2	12.4	7.1	10.6	8.2	7.1	4.1	5.3
	50代	9.8	6.1	7.6	11.4	10.6	12.1	12.1	11.4	6.8	-	3.8	2.3
	60代	6.6	7.2	3.3	13.8	19.1	11.8	9.9	15.1	14.5	5.3	5.3	3.9
	70~74歳	5.4	14.3	7.1	25.0	17.9	17.9	16.1	17.9	23.2	7.1	5.4	3.6
女	13~19歳	8.8	22.1	36.8	13.2	11.8	5.9	14.7	8.8	4.4	11.8	7.4	16.2
	20代	9.8	15.0	6.8	11.3	8.3	11.3	10.5	9.0	8.3	20.3	7.5	7.5
	30代	25.6	15.0	18.3	13.9	6.1	7.2	16.7	8.9	6.1	18.9	9.4	2.2
	40代	30.6	10.6	25.0	6.3	8.1	4.4	6.3	8.8	6.9	5.6	5.0	4.4
	50代	12.3	13.1	5.4	4.6	10.0	7.7	13.8	13.1	12.3	2.3	2.3	1.5
	60代	1.9	15.4	1.9	9.9	10.5	11.1	13.6	6.8	14.2	4.3	3.1	3.7
	70~74歳	-	12.7	1.6	3.2	14.3	15.9	12.7	9.5	19.0	-	4.8	7.9

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

(11) 環境問題

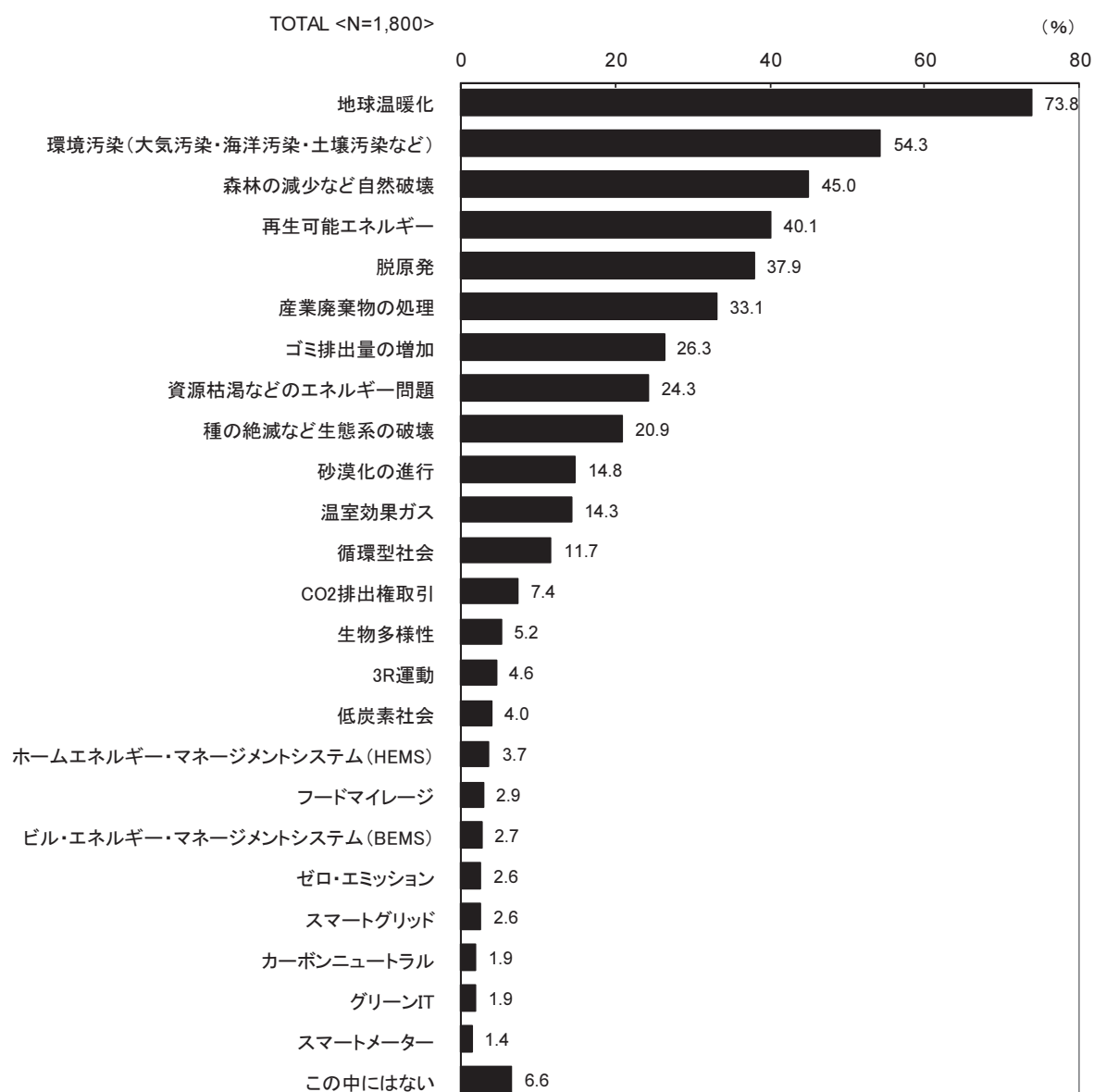
- 1. 環境問題や環境用語の中で関心が高いもの

TOTAL でみると、最も関心が高い環境問題・環境用語は「地球温暖化」で74%が回答、以下「環境汚染（大気汚染・海洋汚染・土壌汚染など）」（54%）、「森林の減少など自然破壊」「再生可能エネルギー」（それぞれ40%台）が続いている。

東京・大阪間に有意差がみられるのは「生物多様性」「ビル・エネルギー・マネジメントシステム（BEMS）」の2項目で、2項目とも大阪より東京のほうが高い。

男女間には24項目中11項目で有意差がみられ、「循環型社会」「低炭素社会」「ゼロ・エミッション」をはじめとした7項目は女性より男性、「地球温暖化」「環境汚染」「自然破壊」「ゴミ排出量の増加」の4項目は男性より女性のほうが高い。

図III-5-11. 環境問題や環境用語の中で関心が高いもの



表Ⅲ-5-15. 環境問題や環境用語の中で関心が高いもの(上位3)

(注)()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	地球温暖化(74)	環境汚染(54)	森林の減少など自然破壊(45)
東京<N=1,125>	地球温暖化(75)	環境汚染(55)	森林の減少など自然破壊(46)
大阪<N=675>	地球温暖化(72)	環境汚染(53)	森林の減少など自然破壊(44)
男<N=904>	地球温暖化(69)	環境汚染(50)	森林の減少など自然破壊(42)
女<N=896>	地球温暖化(78)	環境汚染(59)	森林の減少など自然破壊(48)
男 13~19歳<N=71>	地球温暖化(66)	環境汚染(34)	森林の減少など自然破壊(30)
男 20代<N=137>	地球温暖化(58)	環境汚染(43)	森林の減少など自然破壊(37)
男 30代<N=186>	地球温暖化(59)	環境汚染(44)	森林の減少など自然破壊 ／再生可能エネルギー(各 32)
男 40代<N=170>	地球温暖化(74)	環境汚染(50)	森林の減少など自然破壊(46)
男 50代<N=132>	地球温暖化(73)	環境汚染(52)	再生可能エネルギー ／産業廃棄物の処理(各 46)
男 60代<N=152>	地球温暖化(77)	環境汚染(62)	森林の減少など自然破壊 ／脱原発(各 54)
男 70~74歳<N=56>	地球温暖化(86)	環境汚染／森林の減少など自然破壊(各 64)	
女 13~19歳<N=68>	地球温暖化(82)	環境汚染(46)	森林の減少など自然破壊(37)
女 20代<N=133>	地球温暖化(68)	環境汚染(53)	森林の減少など自然破壊(43)
女 30代<N=180>	地球温暖化(77)	環境汚染(57)	森林の減少など自然破壊(42)
女 40代<N=160>	地球温暖化(74)	環境汚染(57)	森林の減少など自然破壊(43)
女 50代<N=156>	地球温暖化(86)	環境汚染(60)	再生可能エネルギー(51)
女 60代<N=162>	地球温暖化(85)	環境汚染(68)	森林の減少など自然破壊(64)
女 70~74歳<N=56>	地球温暖化(83)	環境汚染(71)	森林の減少など自然破壊(60)

表Ⅲ-5-16. 環境問題や環境用語の中で関心が高いもの

(%)

	N	地球温暖化	環境汚染	森林の減少 など自然破壊	再生可能 エネルギー	脱原発	産業廃棄物 の処理	ゴミ排出量 の増加	エネルギー問題 資源枯渇など	種の絶滅など 生態系の破壊	砂漠化の進行	温室効果ガス	循環型社会	
TOTAL	1,800	73.8	54.3	45.0	40.1	37.9	33.1	26.3	24.3	20.9	14.8	14.3	11.7	
東京	1,125	74.9	55.2	45.6	41.2	39.2	34.6	26.4	25.2	21.2	15.9	14.9	12.3	
大阪	675	71.9	52.7	44.0	38.2	35.9	30.5	26.2	23.0	20.4	13.0	13.2	10.7	
男	904	68.9	49.6	41.8	38.8	37.6	32.7	21.3	25.0	21.2	15.6	15.4	13.7	
女	896	78.7	59.0	48.2	41.3	38.3	33.4	31.4	23.7	20.5	14.1	13.2	9.6	
男	13~19歳	71	66.2	33.8	29.6	16.9	21.1	12.7	18.3	8.5	12.7	15.5	12.7	9.9
	20代	137	58.4	43.1	37.2	27.0	29.2	22.6	19.7	17.5	19.0	13.1	19.0	11.7
	30代	186	59.1	44.1	31.7	31.7	26.9	21.0	14.0	22.6	22.0	14.0	9.7	7.5
	40代	170	73.5	50.0	45.9	43.5	37.1	32.9	22.4	23.5	24.7	15.3	14.1	12.9
	50代	132	72.7	51.5	38.6	46.2	45.5	46.2	23.5	29.5	20.5	18.2	18.2	15.2
	60代	152	77.0	61.8	53.9	53.3	53.9	48.0	27.6	36.2	21.7	17.1	16.4	21.1
	70~74歳	56	85.7	64.3	64.3	48.2	53.6	48.2	28.6	35.7	25.0	17.9	23.2	23.2
女	13~19歳	68	82.4	45.6	36.8	19.1	16.2	16.2	27.9	8.8	8.8	11.8	30.9	7.4
	20代	133	67.7	53.4	42.9	36.1	27.8	24.8	21.8	15.8	30.8	8.3	19.5	4.5
	30代	180	76.7	57.2	42.2	37.2	35.6	31.1	32.8	20.6	19.4	12.2	8.9	8.3
	40代	160	74.4	56.9	43.1	35.0	36.3	28.8	30.0	23.8	21.9	14.4	8.1	8.8
	50代	130	86.2	60.0	49.2	50.8	47.7	43.8	30.0	27.7	19.2	11.5	13.8	10.8
	60代	162	85.2	67.9	63.6	54.9	46.9	38.3	35.8	32.7	16.7	20.4	9.9	15.4
	70~74歳	63	82.5	71.4	60.3	49.2	55.6	54.0	46.0	33.3	23.8	22.2	12.7	11.1

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

表Ⅲ-5-16. 環境問題や環境用語の中で関心が高いもの(つづき) (%)

	CO ₂ 排出権取引	生物多様性	3R運動	低炭素社会	ホームエネルギー・マネジメント	システム(HEMS)マネージメント	ビル・エネルギー・マネジメント	システム(BEMS)マネージメント	ゼロ・エミッション	スマートグリッド	カーボン・ニュートラル	グリーンIT	スマートメーター	この中にはない
TOTAL	7.4	5.2	4.6	4.0	3.7	2.9	2.7	2.6	2.6	1.9	1.9	1.4	6.6	
東京	7.5	6.3	4.8	4.4	4.1	3.2	3.6	2.6	2.8	2.3	2.0	1.4	6.4	
大阪	7.4	3.3	4.1	3.4	3.0	2.4	1.3	2.7	2.2	1.3	1.8	1.5	6.8	
男	8.5	5.3	4.1	5.5	4.3	2.7	3.1	4.6	4.3	2.8	2.8	2.7	8.1	
女	6.4	5.0	5.0	2.5	3.0	3.1	2.3	0.6	0.8	1.1	1.0	0.2	5.0	
男	13~19歳	11.3	2.8	5.6	5.6	4.2	2.8	2.8	5.6	2.8	4.2	1.4	1.4	25.4
	20代	11.7	8.0	10.9	5.8	5.1	5.1	5.1	6.6	6.6	4.4	5.1	2.9	11.7
	30代	8.1	2.7	2.7	2.7	3.2	1.6	2.2	3.8	4.3	4.3	3.2	3.2	10.8
	40代	5.9	7.6	2.9	6.5	6.5	3.5	3.5	7.6	4.7	2.9	2.9	2.9	5.9
	50代	9.8	4.5	2.3	6.8	6.1	3.0	3.8	3.0	4.5	0.8	0.8	2.3	3.8
	60代	4.6	5.3	2.0	6.6	0.7	0.7	0.7	2.0	3.3	1.3	2.0	2.0	1.3
	70~74歳	14.3	5.4	3.6	5.4	5.4	1.8	5.4	3.6	1.8	-	3.6	3.6	3.6
女	13~19歳	8.8	10.3	11.8	2.9	-	2.9	-	-	-	-	1.5	-	11.8
	20代	8.3	3.8	9.8	2.3	1.5	3.8	3.0	1.5	0.8	2.3	1.5	-	12.0
	30代	2.2	5.0	5.6	1.7	1.1	3.3	0.6	0.6	1.1	0.6	1.1	-	2.8
	40代	3.1	2.5	5.0	3.1	3.1	6.3	0.6	-	0.6	0.6	0.6	-	6.3
	50代	4.6	1.5	1.5	0.8	6.9	0.8	3.1	1.5	-	-	0.8	-	0.8
	60代	11.1	7.4	1.9	2.5	3.7	1.2	4.9	-	1.2	2.5	1.2	1.2	1.9
	70~74歳	11.1	9.5	1.6	6.3	4.8	3.2	4.8	-	1.6	1.6	-	-	3.2

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

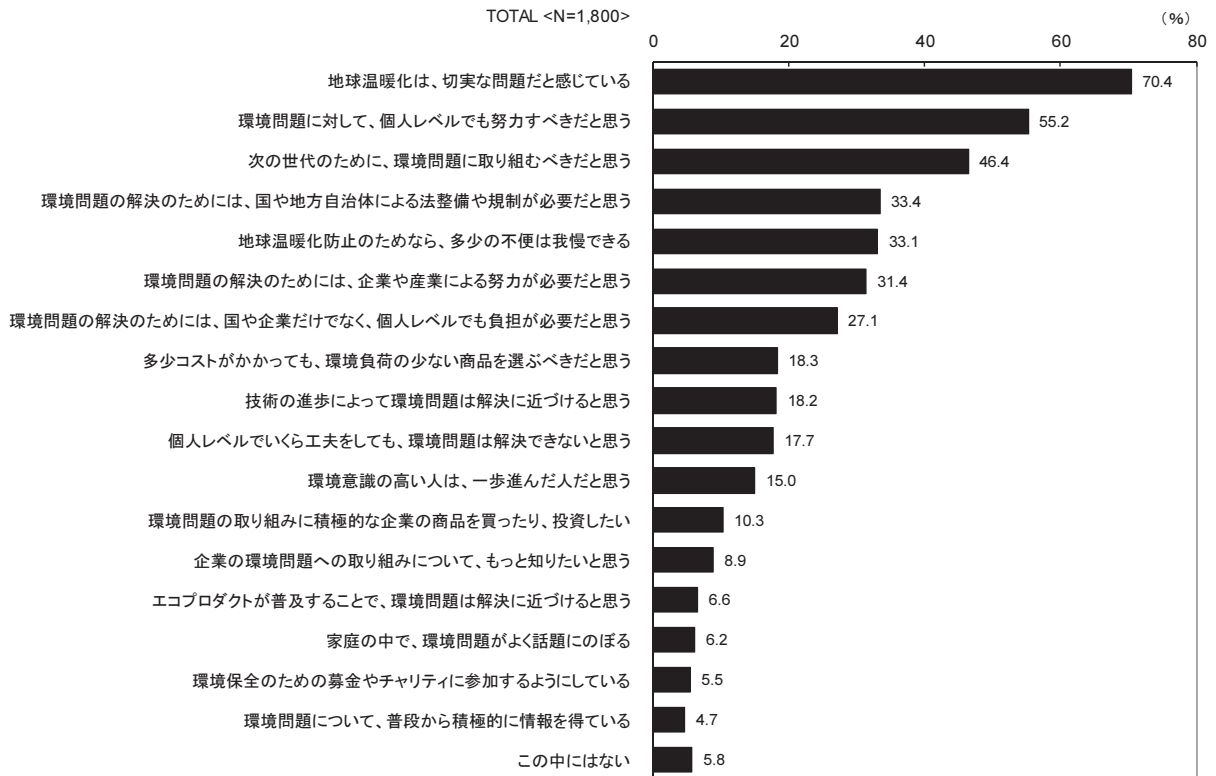
ー 2. 環境問題に対する意識・行動

TOTAL でみると、「地球温暖化は、切実な問題だと感じている」が 70%で最も高く、以下「環境問題に対して、個人レベルでも努力すべきだと思う」(55%)、「次の世代のために、環境問題に取り組むべきだと思う」(46%)が続いている。

東京・大阪間には「地球温暖化は切実な問題だと感じている」「環境問題の解決のためには、国や地方公共団体による法整備や規制が必要だと思う」「地球温暖化防止のためなら、多少の不便は我慢できる」「多少コストがかかっても、環境負荷の少ない商品を選ぶべきだと思う」「環境問題の取り組みに積極的な企業の商品を買ったり、投資したい」「企業の環境問題への取り組みについて、もっと知りたいと思う」の 6 項目で有意差がみられ、6 項目とも大阪より東京のほうが高い。

男女間に有意差がみられ、女性より男性のほうが高いのは、「技術の進歩によって環境問題は解決に近づけると思う」の 1 項目で、「地球温暖化は、切実な問題だと感じている」「環境問題に対して、個人レベルでも努力すべきだと思う」「次の世代のために、環境問題に取り組むべきだと思う」「地球温暖化防止のためなら、多少の不便は我慢できる」「環境保全のための募金やチャリティに参加するようにしている」の 5 項目では男性より女性のほうが高い。

図Ⅲ-5-12. 環境問題に対する意識・行動



表Ⅲ-5-17. 環境問題に対する意識・行動(上位3)

(注) ()内数字は%

属性	地球温暖化は切実な問題 (70)	環境問題は個人レベルでも…(55)	次世代のため取り組むべき(46)
TOTAL<N=1,800>	70	55	46
東京<N=1,125>	72	56	48
大阪<N=675>	67	53	45
男<N=904>	68	51	44
女<N=896>	73	59	49
男 13～19 歳<N=71>	58	34	27
男 20 代<N=137>	64	51	31
男 30 代<N=186>	59	49	37
男 40 代<N=170>	69	53	44
男 50 代<N=132>	73	57	55
男 60 代<N=152>	76	55	51
男 70～74 歳<N=56>	86	66	63
女 13～19 歳<N=68>	68	46	34
女 20 代<N=133>	65	54	41
女 30 代<N=180>	66	61	53
女 40 代<N=160>	74	60	49
女 50 代<N=156>	77	65	55
女 60 代<N=162>	81	61	53
女 70～74 歳<N=56>	86	62	56

表Ⅲ-5-18. 環境問題に対する意識・行動

(%)

	N	地球温暖化は切実な問題だと感じている	環境問題に対して個人レベルでも努力すべき	次の世代のため環境問題に取り組むべき	環境問題解決のため法整備や規制が必要	不便我慢できるため、多少の地球温暖化防止	環境問題解決のため、企業のため、努力が必要	環境問題解決のため、個人レベルでの負担必要	商品を選ぶべき環境負荷少ないコストがかかっても	技術進歩で環境問題は解決に近づけると思う	夫しても環境問題個人レベルで工	環境意識の高い人だと思ふ	商品を買いたい積極的な企業の環境問題に	
TOTAL	1,800	70.4	55.2	46.4	33.4	33.1	31.4	27.1	18.3	18.2	17.7	15.0	10.3	
東京	1,125	72.4	56.4	47.5	35.6	35.9	32.7	28.3	19.8	17.3	17.4	14.7	11.9	
大阪	675	67.3	53.3	44.6	29.6	28.3	29.3	25.0	15.9	19.7	18.2	15.6	7.7	
男	904	67.8	51.3	43.8	34.6	29.9	31.2	25.9	16.7	21.9	19.4	13.9	9.4	
女	896	73.1	59.2	49.0	32.1	36.3	31.7	28.2	20.0	14.5	16.1	16.1	11.3	
男	13~19歳	71	57.7	33.8	26.8	14.1	11.3	8.5	11.3	15.5	12.7	8.5	1.4	
	20代	137	63.5	51.1	31.4	27.0	21.2	17.5	13.9	19.0	23.4	16.8	7.3	
	30代	186	58.6	48.9	37.1	32.3	21.5	26.3	20.4	22.6	21.5	12.4	4.8	
	40代	170	68.8	52.9	43.5	34.1	31.8	35.9	24.7	24.7	14.1	11.8	11.2	
	50代	132	72.7	56.8	54.5	38.6	29.5	32.6	32.6	15.2	24.2	17.4	14.4	11.4
	60代	152	75.7	50.7	55.3	46.1	46.1	46.7	28.3	19.7	20.4	24.3	19.1	13.8
	70~74歳	56	85.7	66.1	62.5	48.2	53.6	50.0	42.9	30.4	25.0	17.9	10.7	17.9
女	13~19歳	68	67.6	45.6	33.8	10.3	30.9	7.4	13.2	13.2	16.2	14.7	10.3	
	20代	133	64.7	54.1	41.4	36.1	21.8	23.3	25.6	15.8	15.0	17.3	12.0	
	30代	180	66.1	60.6	53.3	32.2	31.1	30.0	26.1	16.7	13.9	17.2	9.4	
	40代	160	74.4	60.0	48.8	30.0	34.4	28.8	22.5	20.0	11.9	18.8	16.9	9.4
	50代	130	76.9	65.4	54.6	30.8	37.7	36.9	36.2	19.2	18.5	16.9	12.3	12.3
	60代	162	80.9	60.5	52.5	37.7	49.4	48.1	35.8	26.5	16.0	16.0	15.4	13.6
	70~74歳	63	85.7	61.9	49.2	41.3	55.6	34.9	34.9	33.3	9.5	15.9	19.0	12.7

	もっと知りたい企業の環境問題への取り組み	エコプロダクト普及で環境問題は解決に近づく	家庭の中で環境問題がよく話題にのぼる	環境保全のため募金等に参加する	情報を得ている環境問題について積極的に	この中にはない	
TOTAL	8.9	6.6	6.2	5.5	4.7	5.8	
東京	10.0	6.8	6.0	5.5	4.8	4.9	
大阪	7.1	6.2	6.7	5.5	4.6	7.4	
男	8.4	6.2	5.8	4.4	5.2	6.7	
女	9.5	6.9	6.7	6.6	4.2	4.9	
男	13~19歳	7.0	2.8	8.5	8.5	2.8	29.6
	20代	5.8	8.8	5.1	3.6	3.6	8.8
	30代	7.0	4.3	4.3	3.8	2.7	8.1
	40代	9.4	7.6	6.5	2.9	7.6	4.7
	50代	8.3	6.1	3.8	3.0	6.1	2.3
	60代	9.2	5.3	5.9	5.9	4.6	-
	70~74歳	16.1	8.9	10.7	7.1	12.5	3.6
女	13~19歳	4.4	13.2	7.4	10.3	1.5	16.2
	20代	9.8	11.3	6.0	2.3	2.3	7.5
	30代	7.8	2.2	7.2	6.7	5.0	6.7
	40代	10.0	5.0	8.1	7.5	3.1	3.8
	50代	8.5	6.9	4.6	6.9	4.6	0.8
	60代	12.3	8.0	4.3	7.4	7.4	1.9
	70~74歳	12.7	6.3	12.7	6.3	3.2	1.6

(注) 網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

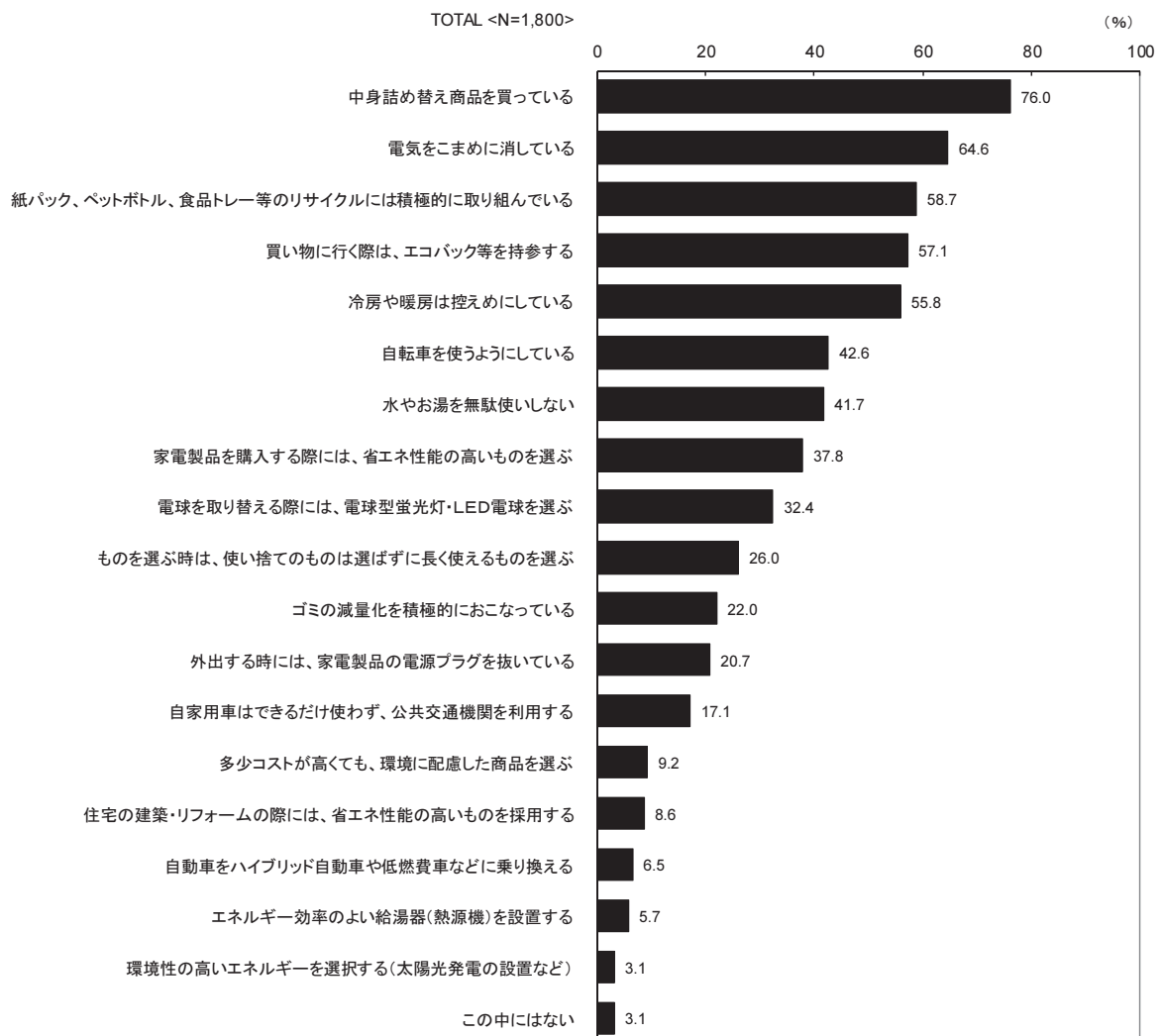
ー 3. 環境のためにしていること

TOTAL でみると、「中身詰め替え商品を買っている」が 76%で最も高く、以下「電気をこまめに消している」(65%)、「紙パック、ペットボトル、食品トレー等のリサイクルには積極的に取り組んでいる」「買い物に行く際は、エコバック等を持参する」「冷房や暖房は控えめにしている」(それぞれ 50%台)が続いている。

東京・大阪間には「中身詰め替え商品を買っている」「紙パック、ペットボトル、食品トレー等のリサイクルには積極的に取り組んでいる」「買い物に行く際は、エコバック等を持参する」「電球を取り替える際には、電球型蛍光灯・LED 電球を選ぶ」の 4 項目で有意差がみられ、4 項目とも大阪より東京のほうが高い。

男女間でみると、18 項目中 14 項目に有意差がみられ、女性より男性のほうが高いのは「環境性の高いエネルギーを選択する(太陽光発電の設置など)」の 1 項目で、「中身詰め替え商品を買っている」「電気をこまめに消している」「紙パック、ペットボトル、食品トレー等のリサイクルには積極的に取り組んでいる」「買い物に行く際はエコバックを持参する」「冷房や暖房は控えめにしている」「自転車を使うようにしている」をはじめとした 13 項目では、男性より女性のほうが高い。

図Ⅲ-5-13. 環境のためにしていること



表Ⅲ-5-19. 環境のためにしていること(上位3)

(注) ()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	中身詰め替え商品を買っている (76)	電気をこまめに消している(65)	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる(59)
東京<N=1,125>	中身詰め替え商品を買っている (79)	電気をこまめに消している(66)	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる(62)
大阪<N=675>	中身詰め替え商品を買っている (71)	電気をこまめに消している(63)	冷房や暖房は控え目にしている (56)
男<N=904>	中身詰め替え商品を買っている (69)	電気をこまめに消している(59)	冷房や暖房は控え目にしている (52)
女<N=896>	中身詰め替え商品を買っている (83)	電気をこまめに消している(70)	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる(68)
男 13～19 歳<N=71>	中身詰め替え商品を買っている (49)	電気をこまめに消している(47)	自転車を使うようにしている (37)
男 20 代<N=137>	中身詰め替え商品を買っている (64)	電気をこまめに消している(48)	買い物の際はエコバッグ等を持参する(42)
男 30 代<N=186>	中身詰め替え商品を買っている (74)	電気をこまめに消している(53)	冷房や暖房は控え目にしている (45)
男 40 代<N=170>	中身詰め替え商品を買っている (74)	電気をこまめに消している(67)	冷房や暖房は控え目にしている (49)
男 50 代<N=132>	中身詰め替え商品を買っている (71)	電気をこまめに消している／冷房や暖房は控え目にしている(各 63)	
男 60 代<N=152>	中身詰め替え商品を買っている (72)	電気をこまめに消している(66)	冷房や暖房は控え目にしている (63)
男 70～74 歳<N=56>	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる(84)	冷房や暖房は控え目にしている (77)	電気をこまめに消している(71)
女 13～19 歳<N=68>	中身詰め替え商品を買っている (65)	電気をこまめに消している(54)	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる(53)
女 20 代<N=133>	中身詰め替え商品を買っている (82)	電気をこまめに消している(63)	買い物の際はエコバッグ等を持参する(57)
女 30 代<N=180>	中身詰め替え商品を買っている (87)	電気をこまめに消している(67)	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる／買い物の際はエコバッグ等を持参する (各 63)
女 40 代<N=160>	中身詰め替え商品を買っている (87)	電気をこまめに消している(77)	買い物の際はエコバッグ等を持参する(72)
女 50 代<N=156>	中身詰め替え商品を買っている (85)	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる(83)	買い物の際はエコバッグ等を持参する(75)
女 60 代<N=162>	中身詰め替え商品を買っている (84)	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる(75)	冷房や暖房は控え目にしている (74)
女 70～74 歳<N=56>	紙パック等のリサイクルに積極的に取り組んでいる(86)	中身詰め替え商品を買っている／電気をこまめに消している／買い物の際はエコバッグ等を持参する(各 81)	

表Ⅲ-5-20. 環境のためにしていること

(%)

	N	商品買っている 中身詰め替え	電気をこまめに 消している	紙パック等のリ サイクル積極的	に取組んでいる	はエコバック等 買物に行く際	を持参する	冷房や暖房は控 え目にして	自転車を使う ようにしている	無駄使しない 水やお湯を	省エネ性能の 家電製品は	高いものを選ぶ LEDを選ぶ 電球を取り替	ゴミの減量化を 積極的に	ものを選ぶ 長く使える 使い捨ては選ば	おこなっている 積極的に	製品を抜いている 電源プラグ 外出時は家電
TOTAL	1,800	76.0	64.6	58.7	57.1	55.8	42.6	41.7	37.8	32.4	26.0	22.0	20.7			
東京	1,125	79.1	65.5	62.2	61.7	55.7	42.8	42.0	37.3	34.8	26.4	23.2	21.6			
大阪	675	70.8	63.0	52.9	49.3	56.0	42.2	41.0	38.5	28.3	25.3	20.0	19.3			
男	904	68.9	59.2	50.0	46.9	51.8	36.5	36.2	30.9	28.4	21.5	16.7	17.9			
女	896	83.1	70.0	67.5	67.3	59.9	48.7	47.2	44.8	36.4	30.6	27.3	23.5			
男	13~19歳	71	49.3	46.5	32.4	33.8	32.4	36.6	26.8	7.0	7.0	8.5	8.5	8.5		
	20代	137	64.2	48.2	40.1	41.6	40.1	37.2	24.1	16.1	15.3	16.8	11.7	16.8		
	30代	186	73.7	53.2	44.6	39.8	45.2	31.2	32.8	26.3	26.9	20.4	11.3	16.7		
	40代	170	73.5	66.5	45.3	44.7	49.4	29.4	38.8	31.8	32.9	18.2	14.7	15.3		
	50代	132	71.2	62.9	55.3	53.8	62.9	40.2	41.7	39.4	32.6	19.7	14.4	16.7		
	60代	152	71.7	66.4	61.8	54.6	63.2	40.1	44.1	46.7	36.8	30.3	26.3	20.4		
	70~74歳	56	62.5	71.4	83.9	69.6	76.8	55.4	46.4	46.4	46.4	42.9	42.9	41.1		
女	13~19歳	68	64.7	54.4	52.9	44.1	47.1	44.1	32.4	11.8	13.2	10.3	10.3	17.6		
	20代	133	82.0	63.2	44.4	57.1	52.6	38.3	39.8	25.6	21.8	21.1	15.8	26.3		
	30代	180	86.7	67.2	63.3	63.3	57.8	41.7	42.8	41.7	38.3	31.7	21.7	23.3		
	40代	160	86.9	76.9	70.6	71.9	56.3	59.4	50.6	52.5	36.3	27.5	25.0	24.4		
	50代	130	84.6	70.8	83.1	75.4	56.2	51.5	46.2	48.5	35.4	29.2	29.2	15.4		
	60代	162	84.0	73.5	74.7	73.5	74.1	55.6	58.0	59.9	48.1	42.6	43.8	25.3		
	70~74歳	63	81.0	81.0	85.7	81.0	76.2	44.4	57.1	63.5	58.7	49.2	46.0	34.9		

	この中にはない	選択する エネルギーを 環境性の高い	を設置する のよい給湯器 エネルギー効率	に乗り換える コンパクトカー ハイブリッドや	を採用する 性能の高いもの 住宅には省エネ	した商品を選ぶ も環境に配慮 コストがなくて	利用する 公共交通機関を できるだけ	
TOTAL	17.1	9.2	8.6	6.5	5.7	3.1	3.1	
東京	17.4	9.6	9.1	6.6	5.2	3.0	2.3	
大阪	16.6	8.6	7.9	6.4	6.7	3.3	4.4	
男	14.7	8.0	8.4	7.1	6.5	4.2	4.8	
女	19.5	10.5	8.8	5.9	4.9	2.0	1.5	
男	13~19歳	1.4	4.2	1.4	8.5	4.2	2.8	15.5
	20代	10.9	4.4	4.4	2.9	4.4	1.5	11.7
	30代	10.8	5.9	4.3	3.2	2.7	2.7	3.8
	40代	14.7	8.2	7.6	6.5	7.6	5.3	2.9
	50代	12.9	9.1	9.8	10.6	10.6	1.5	1.5
	60代	24.3	12.5	15.1	10.5	8.6	7.9	0.7
	70~74歳	32.1	12.5	21.4	12.5	8.9	10.7	1.8
女	13~19歳	10.3	2.9	1.5	4.4	1.5	-	10.3
	20代	21.8	3.0	1.5	3.8	0.8	0.8	2.3
	30代	16.7	10.0	8.9	3.9	3.9	1.1	1.1
	40代	18.1	6.3	6.3	10.0	2.5	1.3	-
	50代	20.8	12.3	10.0	5.4	7.7	3.1	-
	60代	22.2	19.8	17.9	6.8	9.3	4.9	0.6
	70~74歳	27.0	19.0	12.7	6.3	9.5	1.6	-

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

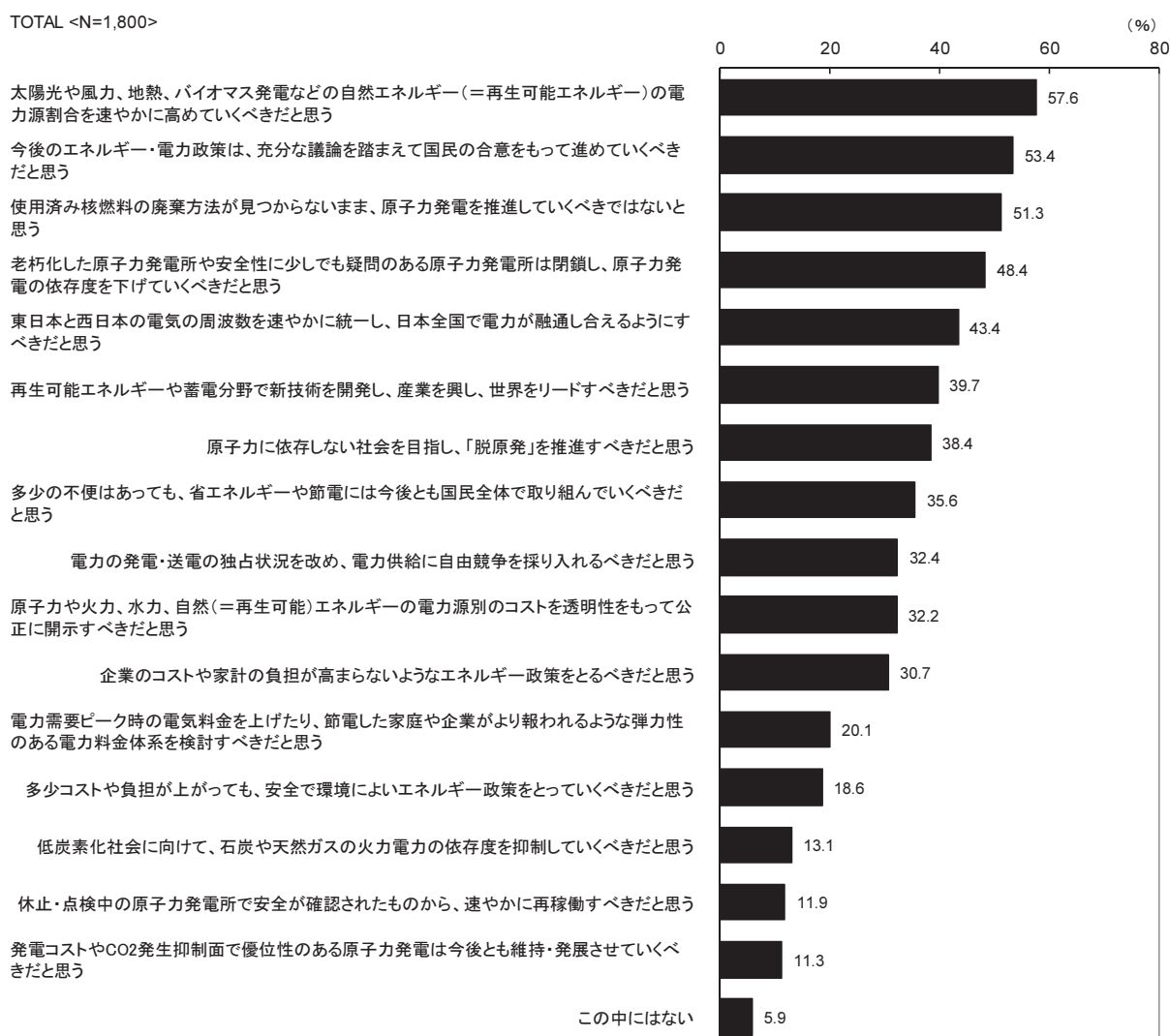
(12) エネルギー政策について

ー 1. 今後のエネルギー・電力政策に対する考え

TOTAL でみると、「太陽光や風力、地熱、バイオマス発電などの自然エネルギー（＝再生可能エネルギー）の電力源割合を速やかに高めていくべきだと思う」「今後のエネルギー・電力政策は、十分な議論を踏まえて国民の合意をもって進めていくべきだと思う」「使用済み核燃料の廃棄方法が見つからないまま、原子力発電を推進していくべきではないと思う」がそれぞれ 50%以上、「老朽化した原子力発電所や安全性に少しでも疑問のある原子力発電所は閉鎖し、原子力発電の依存度を下げていくべきだと思う」「東日本と西日本の電気の周波数を速やかに統一し、日本全国で電力が融通し合えるようにすべきだと思う」がそれぞれ 40%台。

東京・大阪間には「太陽光や風力、地熱、バイオマス発電などの自然エネルギー（＝再生可能エネルギー）の電力源割合を速やかに高めていくべきだと思う」「使用済み核燃料の廃棄方法が見つからないまま、原子力発電を推進していくべきではないと思う」「東日本と西日本の電気の周波数を速やかに統一し、日本全国で電力が融通し合えるようにすべきだと思う」をはじめとして 16 項目中 8 項目で有意差がみられ、8 項目とも大阪より東京のほうが高い。

図Ⅲ-5-14. 今後のエネルギー・電力政策に対する考え



表Ⅲ-5-21. 今後のエネルギー・電力政策に対する考え(上位3)

(注)()内数字は%

TOTAL<N=1,800>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(58)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(53)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(51)
東京<N=1,125>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(60)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(54)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(53)
大阪<N=675>	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(54)	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(54)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(46)
男<N=904>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(57)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(53)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(49)
女<N=896>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(59)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(54)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(54)
男 13～19 歳<N=71>	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(38)	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(35)	新技術を開発し産業を興し、世界をリードする(23)
男 20 代<N=137>	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(51)	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(47)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない／新技術を開発し産業を興し、世界をリードする(各 38)
男 30 代<N=186>	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(52)	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(50)	東西の周波数を速やかに統一する(44)
男 40 代<N=170>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(61)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(52)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(51)
男 50 代<N=132>	原子力発電の依存度を下げたいべき(64)	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(60)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(58)
男 60 代<N=152>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(72)	原子力発電の依存度を下げたいべき(63)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(63)
男 70～74 歳<N=56>	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(77)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない／東西の周波数を速やかに統一する(各 71)	
女 13～19 歳<N=68>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(43)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(38)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(25)
女 20 代<N=133>	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(58)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(47)	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(40)
女 30 代<N=180>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(57)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(49)	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(49)
女 40 代<N=160>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(61)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める(51)	原子力発電の依存度を下げたいべき(49)
女 50 代<N=156>	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(73)	原子力発電の依存度を下げたいべき(64)	今後のエネルギー政策は国民も合意をもって進める／核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(各 61)
女 60 代<N=162>	核燃料の廃棄方法がみつからないまま推進しない(70)	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(65)	原子力発電の依存度を下げたいべき(62)
女 70～74 歳<N=56>	省エネルギーや節電には国民全体で取り組むべき(71)	原子力発電の依存度を下げたいべき(70)	自然エネルギーの電力源割合を速やかに高める(68)

表Ⅲ-5-22. 今後のエネルギー・電力政策に対する考え

(%)

	N	自然エネルギーの電力割合を速やかに高める	もって進めるは国民の合意を今後は電力政策	核燃料廃棄方法がみつからず進めざるべきでない	原子力発電の依存度を下げていくべきだと思っ	速やかに統一東西の周波数を	新技術の開発で世界をリードする	脱原発を推進	省エネや節電に国民全体で取り組む	電力供給に自由競争を	電力源別コストを開示する	政策をとるべきエネルギー負担が高まらな	弾力性のある料金体系を	検討すべき
TOTAL	1,800	57.6	53.4	51.3	48.4	43.4	39.7	38.4	35.6	32.4	32.2	30.7	20.1	20.1
東京	1,125	60.0	53.2	54.3	50.1	45.2	42.0	41.7	37.1	34.9	34.1	30.7	22.0	22.0
大阪	675	53.5	53.8	46.2	45.6	40.3	35.9	32.9	33.0	28.1	29.0	30.8	16.9	16.9
男	904	56.5	53.2	49.1	47.1	44.8	43.1	36.3	31.1	36.4	32.9	29.2	20.5	20.5
女	896	58.6	53.7	53.5	49.8	42.0	36.2	40.5	40.1	28.3	31.6	32.3	19.8	19.8
男	13~19歳	71	35.2	38.0	21.1	14.1	18.3	22.5	18.3	7.0	14.1	16.9	16.9	8.5
	20代	137	47.4	51.1	38.0	37.2	34.3	38.0	29.2	21.9	23.4	24.8	22.6	22.6
	30代	186	49.5	52.2	42.5	40.9	43.5	38.2	31.2	22.0	33.3	28.0	32.3	19.4
	40代	170	60.6	52.4	51.2	43.5	47.1	45.9	32.9	34.1	34.1	30.6	31.2	20.6
	50代	132	59.8	55.3	57.6	64.4	47.7	45.5	43.9	34.8	44.7	40.2	31.8	21.2
	60代	152	72.4	53.9	62.5	63.2	53.3	52.6	47.4	46.7	49.3	42.8	28.9	22.4
	70~74歳	56	66.1	76.8	71.4	60.7	71.4	58.9	55.4	53.6	58.9	51.8	39.3	26.8
女	13~19歳	68	42.6	38.2	25.0	14.7	14.7	17.6	23.5	14.7	5.9	5.9	8.8	5.9
	20代	133	39.8	57.9	47.4	35.3	33.1	28.6	29.3	26.3	14.3	24.8	30.8	21.8
	30代	180	57.2	49.4	48.9	45.6	31.1	37.2	35.6	38.3	25.0	35.0	32.2	17.8
	40代	160	60.6	50.6	48.8	49.4	42.5	31.9	42.5	38.8	32.5	27.5	32.5	20.0
	50代	130	73.1	60.8	60.8	63.8	48.5	43.8	51.5	38.5	30.8	38.5	38.5	18.5
	60代	162	64.8	58.6	69.8	62.3	59.3	43.8	46.3	54.3	42.6	40.1	35.2	22.8
	70~74歳	63	68.3	54.0	65.1	69.8	61.9	44.4	54.0	71.4	39.7	38.1	39.7	30.2

	N	政策をとるべき良いエネルギー安全で環境に	度を抑制する火力電力の依存	速やかに再稼働原子力発電を	今後とも維持・発展させる原子力発電を	この中にはない
TOTAL	18.6	13.1	11.9	11.3	5.9	5.9
東京	20.0	14.0	11.2	11.8	4.6	4.6
大阪	16.3	11.7	13.0	10.5	8.1	8.1
男	18.1	14.9	15.8	14.7	7.0	7.0
女	19.1	11.3	7.9	7.9	4.9	4.9
男	13~19歳	1.4	5.6	4.2	5.6	31.0
	20代	16.1	11.7	16.8	12.4	10.9
	30代	11.8	12.4	15.1	17.7	8.1
	40代	19.4	16.5	19.4	16.5	2.9
	50代	22.7	17.4	15.9	11.4	0.8
	60代	25.0	17.1	13.8	16.4	2.6
	70~74歳	32.1	26.8	25.0	19.6	1.8
女	13~19歳	7.4	7.4	8.8	14.7	19.1
	20代	16.5	11.3	11.3	10.5	8.3
	30代	16.7	10.6	7.2	5.6	5.0
	40代	17.5	8.8	10.6	8.1	2.5
	50代	20.8	13.8	5.4	4.6	0.8
	60代	27.8	13.0	6.2	9.3	2.5
	70~74歳	22.2	14.3	4.8	4.8	3.2

(注)網掛け部分は、東京・大阪間、男・女間に信頼度 95%水準で有意差があることを示す。

ー 2. 望ましいエネルギー供給源割合

2020年度、2030年度の望ましいエネルギー供給割合を回答してもらった結果は以下の通り。

《2009年実績に比較して供給割合が増加》

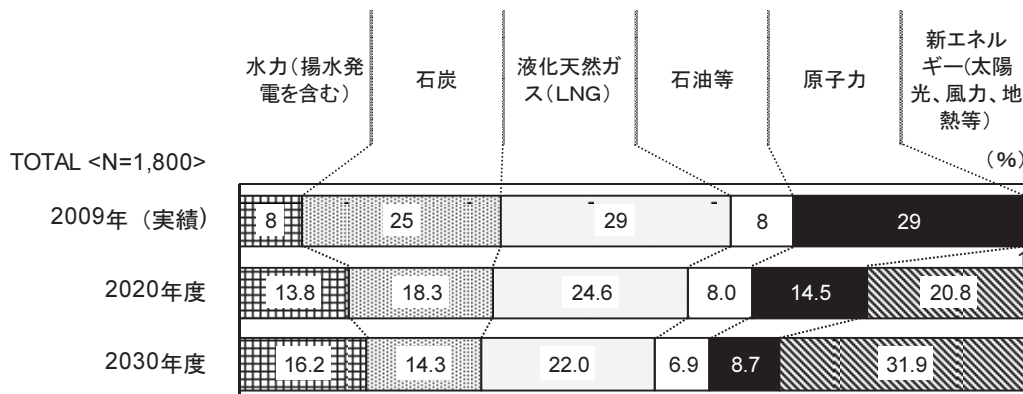
- 「新エネルギー（太陽光、風力、地熱等）」（1%→21%→32%/2030年度は2009年比32倍）
- 「水力」（8%→14%→16%/2030年度は2009年比2倍）

《2009年実績に比較して供給割合が減少》

- 「原子力」（29%→15%→9%/2030年度は2009年比70%減）
- 「石炭」（25%→18%→14%/2030年度は2009年比43%減）
- 「液化天然ガス（LNG）」（29%→25%→22%/2030年度は2009年比24%減）

となっており、「新エネルギー（太陽光、風力、地熱等）」が3,200%増、「原子力」が70%減。

図Ⅲ-5-15. 望ましいエネルギー供給源割合



図Ⅲ-5-16. 望ましいエネルギー供給源割合(2020年度・2030年度比較)

